

# 沖縄県立博物館年報

No. 12

皇帝勅諭琉球國中山王尚真

朕嗣守鴻圖統御萬方聲教所暨宜

覃恩澤矧惟王國世篤忠義錫眷之  
典尤所當先使回特頒勅諭王井賜賜  
王及妃帶帛文錦至可收領尚其體

朕眷懷誠秉禮益降藩輔永享太  
平之福故諭

頒賜

王

錦

大紅地紋寶相花一段

丹翠藍如意地紋一段

深青地紋一段

柏枝綠地紋一段

紗

木紅二匹 黑綠一匹

深青二匹 柏枝綠一匹

紗

砂綠三匹 官綠三匹

黑綠二匹 官綠二匹

羅 玉色二匹 官綠二匹

黑綠二匹

錦

深青地紋一段  
柏枝綠地紋一段

妃

1979

## 沖縄県立博物館

## 目 次

序	館長 外 間 正 幸
沿革	(1)
日誌(抄)	(2)
施設・設備	(6)
組織	(8)
昭和53年度予算	(10)
事業	(12)
1. 展示	(14)
2. 調査・研究活動	(26)
3. 資料収集活動	(29)
4. 資料整理	(29)
5. 資料保存・修理	(30)
6. 教育普及活動	(30)
入館者数	(33)
資料	(36)
1. 収蔵資料現在高	(36)
2. 昭和53年度収蔵資料	(36)
3. 新収蔵資料内訳	(37)
4. 新収蔵図書	(40)
5. 主なる新収蔵品写真	(50)
当館関係条例規則(抄)	(54)

※表紙写真 明皇帝より尚真王への勅書

## 序

昭和53年度も館内外の整備充実に努力し、地下室の収蔵庫棚の設置や玄関わきと二階の一部に身障者用の通路を設ける等、これまでの不備な個所をすこしづつ改善しました。それでもまだ十分ではなく、それに、開館後13年を経た今日では、空調や防災面でも多くの欠陥を生じたため、これらとあわせて昭和54年度も整備の面にはとくに力をいれたいと思っております。

収集の面では県指定文化財の「明皇帝より尚真王への勅書」を入手することができたのもさいわいでした。寄贈の部では「賞状・辞令書類」や「玉陵石獅子のレプリカ」等のほか、遠くアメリカの篤志家から「戦前の壺屋陶器」等、それぞれ貴重な資料をいただきました。また、「円覚寺の鐘を鳴らす会」から館の前庭に鐘楼の寄贈を受け、観客の目を引いております。

このように内外の多くの方々の御協力により博物館がますます充実発展していくことを心から感謝いたしております。私たちも皆様の御厚意に答えるべく一層努力し、博物館を沖縄の自然や歴史・文化が一目でわかる立派な殿堂にしたいと思います。

今年度の年報を発刊して館の概要を報告し、今後の御協力を御願い申し上げる次第であります。

昭和54年6月10日

沖縄県立博物館長 外間正幸

## 沿革

1946年4月 (昭和21年)	沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され「東恩納博物館」(当館の前身)と改称。 館長大嶺薰就任(1953年5月退職)	1972年5月 (昭和47年)	日本復帰に伴い、名称を「沖縄県立博物館」と改称。
1947年12月 (昭和22年)	首里市立郷土博物館は沖縄民政府に移管され、「首里博物館」と改称。 館長豊平良顕就任(1948年3月退職)	1973年2月 (昭和48年)	国庫補助を得て1,573m <sup>2</sup> の2階を増築。展示室が3室ふえる。
1948年8月 (昭和23年)	館長原田貞吉就任	1976年4月 (昭和51年)	創立30周年記念事業挙行。
1953年5月 (昭和28年)	首里当蔵町の龍澤池畔に瓦葺の本館とペルリ記念館落成。東恩納博物館と合併し規模拡大する。	[付] 1936年7月 (昭和11年)	沖縄県教育会附設として「沖縄郷土博物館」首里城内北殿を使用して開館される。貴重な文化財が数千点収蔵されていた。
1955年5月 (昭和30年)	1955年5月館長原田貞吉退職。	1945年3~5月 (昭和20年)	沖縄戦で「沖縄郷土博物館」全焼。
1955年8月	館長山里永吉就任	1945年8月	米国海軍軍政府により残次文化財が収集され、石川市東恩納に「沖縄陳列館」設立される。
1955年9月	首里博物館を「琉球政府立博物館」と改称。	1946年3月 (昭和21年)	首里城周辺の廃墟から残欠文化財の収集活動が行われ、「首里市立郷土博物館」が設立される。
1958年8月 (昭和33年)	館長山里永吉退職		
1958年9月	館長金城増太郎就任		
1961年12月 (昭和36年)	館長金城増太郎退職		
1962年2月 (昭和37年)	館長大城知善就任		
1966年10月 (昭和41年)	米国援助により、首里大中町の尚家跡に鉄筋コンクリート建(3,294m <sup>2</sup> )の新館が落成移転。		
1969年11月 (昭和44年)	館長大城知善勤労退職		
1969年12月	館長外間正幸就任		

## 日誌（秒）

（昭和53年4月1日～昭和54年3月31日）

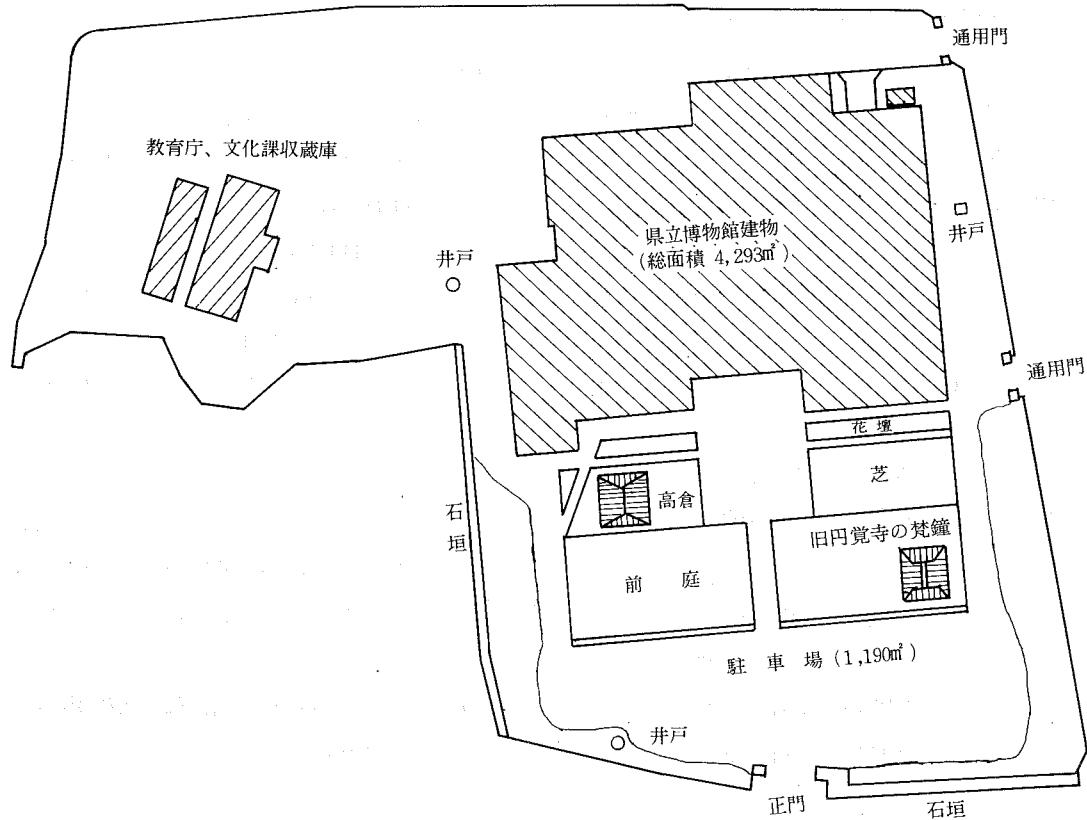
4. 1 書家飯島太久磨氏来館。
- 2 琉球大学卒業展終了。
- 5 ①大嶺薰美術館より肥前ガメ他多数寄贈される。  
②東南アジア古代布展オープン。
- 6 帝京大学統木教授他3人来館。
- 7 多摩美術大学教授田沢年美氏来館。
- 8 円覚寺の鐘を鳴らす会大会（ホール使用）。
- 11 瑞大教授大城志津子氏他2名御絵図帳調査のため来館。
- 12 熊本市沖縄県人会長仲村清和氏来館。
- 14 ①徳島県文化協会理事桧瑛司氏来館  
②シューベルト博士によるドイツにおける緊急発掘調査の映写と講演（於ホール）。
- 15 パラグワイ大使来館。
- 18 元うるま新報社長島清氏、新報社会長池宮城秀意氏の案内で来館。
- 19 インドネシア大使来館。
- 21 ブラジル沖縄文化センター理事長花城清安氏来館。
- 22 第49回文化講座「和紙と芭蕉紙」講師勝公彦氏。
- 25 柳宗理氏一行来館。
- 27 旧円覚寺住職能山宗興氏来館
- 30 ①国立沖縄青年の家所長斎藤弘氏来館。  
②版画家儀間比呂志氏来館。
- 5.10 山元文子氏より首里城の古瓦数点寄贈さる。
- 5.14 最高裁判事江里口清雄氏一行来館。
- 27 第50回文化講座「薬草のはなし」講師
- 多和田真淳氏。
- 31 ①東京都立大学教授石川栄吉氏来館。  
②徳川美術館々長徳川義宜氏、同館学芸員佐藤豊三氏当館より借用の漆器返却のため来館。  
③特別文化講座「琉球漆器について」講師徳川義宜氏。  
④旧円覚寺假鐘樓起工式（当館前庭）
- 2 小橋川永昌氏より赤絵大壺、赤絵急須および湯呑み（6点）寄贈される。
- 6 ①石川県議會議長竹野清次氏来館。  
②沖博協幹事会開催。
- 8 城南小学校先生研修のため来館。
- 9 新匠会理事伊砂利彦氏来館。
- 10 沖縄民俗研究会（於会議室）。
- 12 中国より尚真あての勅書他一点購入。
- 13 新収蔵品展オープン（7月13日まで）。
- 22 ①窪徳忠氏来館。  
②熊本・八代農業高校2年生297名団体見学。
- 24 ①渡久地政保氏芭蕉布着物2点、同反物3点寄贈される。  
②瑞大教授職員会第2回学術講演会。  
(イ)「日本人の国民性と県民性」講師祖父江孝男氏（国立民族博物館教授）。  
(ロ)「水の見方と考え方」－自然と社会との関連を中心に－講師玉野井芳郎氏（沖国大教授）。
- 25 第51回文化講座「島尻の地質」見学  
講師大城逸朗主任学芸員  
島常賀氏より「島常賀展」で展示したシーサー寄贈される。
7. 5 伝、佐渡山安健筆「馬の図」10年間の寄託うける。
- 6～7 沖縄県博物館協会総会・研修会当館

- 8名出席（於読谷）
- 8 ①沖縄民俗研究会（於會議室）  
②漆器研究家伊差川新氏、漆工家金城  
唯喜氏来館。
- 11 旧円覚寺假鐘樓棟上式。
- 12 衆議院物価問題特別委員長美濃政市氏  
一行来館。
- 16 三島格氏ら来館。
- 17 第52回文化講座「博物館で描こう」  
講師喜久村徳男氏。
- 19 喜如嘉の平良敏子女史来館。
- 21 帝塚山大学助教授高山純氏、Richard  
shutler, Jr Ph D, 高宮広衛氏来館。
- 24 国立民族学博物館助教栗田靖之、小  
山修三氏来館。
- 25 ①喜如嘉の芭蕉布展（8月13日まで）  
安次富長昭、大城志津子、平良敏子氏  
ら出席。  
②旧円覚寺假鐘樓瓦ぶき完了。
- 27 金沢医大教授関本博氏来館。
8. 3 在沖縄米国総領事館総領事ウルリック  
ストラウス氏着任挨拶のため来館。
- 12 第53回文化講座「喜如嘉の芭蕉布」  
講師平良敏子氏
- 13 第54回文化講座「貝塚の発掘を見よう」  
講師知念勇学芸員
- 22 北九州少年研修団約70名団体見学。
- 29 辞令書研究のため沖大学長安良城盛昭  
氏、島尻勝太郎氏、波名城八重山博物  
館長、上江洲敏夫氏来館。
9. 3 ①博物館協議会（於會議室）  
②旧円覚寺假鐘樓落慶式、贈呈式、  
祝賀会。
- 5 ①駐日中国大使館員一行来館。  
②水墨画展オープン（10日まで）。
- 7 島袋文雄氏より漆器角盆の寄贈うける。
- 9 沖縄民俗研究会。
- 12 北中城村文化財保護審議会々長安里永  
太郎氏来館。
- 14 原野農芸博物館松居謙次氏来館。
- 16 第55回文化講座「琉装について」  
講師真栄平房啓氏
- 22 煙蒸（24日まで）
- 28 財団法人原爆の図丸木美術館丸木位里  
御夫妻来館。
- 29 名瀬市文化財審議会委員恵原義盛、屋  
井常三両氏来館。
- 30 中野好夫氏来館。
10. 3 ①服部四郎氏「おもろさうし」他閲覧  
のため来館。  
②「沖縄の天然記念物の動物たち」写  
真パネル展オープン（10月29日まで）
- 4 小川徹氏来館。
- 7 イリオモテヤマネコ生態展示入館者数5千人  
8 （日）1万776名。
- 9 スロープ工事着工（10月30日まで）。
- 12 永田芳子氏より紅型着物1点寄贈墓誌  
版の寄託うける。
- 15 イリオモテヤマネコ生態展示入館者数  
7,683人。
- 16 文化庁美工課主任文化財調査官鈴木友  
也氏「円覚寺の鐘をならす会」の要請  
により梵鐘精査のため来館。
- 26 横浜市立大学教授遠山茂樹氏来館。
- 28 第56回文化講座「沖縄の天然記念物の  
動物たち」講師琉大教授池原貞雄氏
- 29 宮城県知事山本壮一郎氏来館。
11. 2 県芸術祭工芸展オープン（5日まで）
- 3 文化の日、特別開館ならびに無料公開
- 4 ①第57回文化講座「尚王家の墓玉陵見

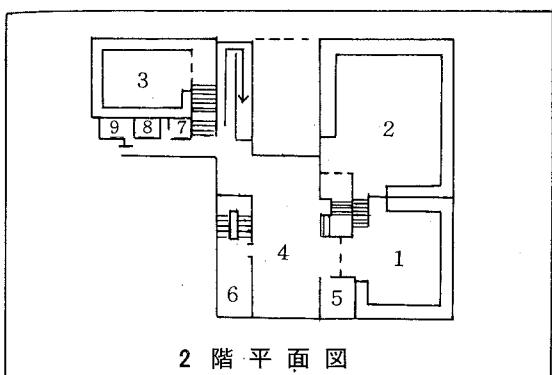
- 学ならびに石造文化について」  
講師名嘉正八郎副館長。
- ②平良敏子氏より芭蕉布着物寄贈。
- 7 三線「西平開鐘」野原俊一氏へ返却。
- 10 県美術展オープン
- 11 ①大韓美術院金晴江氏来館。  
②沖縄民俗研究会。
- 14 徳之島中央公民館主事間計之典氏来館。
- 18 ①新象会（絵画展）オープン（22日まで）。  
②首里金城町の朝永氏よりツボ型カゴ  
寄贈うける。
- 25 ①沖縄県修理技術者協会講習会（於会  
議室）。  
②イタリアの東洋史家PIERO  
CORRADINI氏来館。  
③赤土会展オープン（12月3日まで）。
- 27 成城大学教授平山敏治郎氏御夫妻来館。
- 28 「1978年全沖縄切手展」へ切手原画  
22枚貸出（沖縄郵趣連盟主催）
12. 2 金晴江氏の書画寄贈される。
- 6 ①山元恵一遺作展オープン（15日まで）  
②米国駐日大使シヤーマン代理大使総  
領事の案内で来館。  
③城間喜宏氏より土器の鉢寄贈うける。
- 7 文化庁文化財調査官河原純之氏来館。
- 9 沖縄民俗研究会。
- 14 ①愛知県文化会館長円藤徹氏来館。  
②カブトガニ生体展示（ロビー）。
- 16 第58回文化講座映画鑑賞会。
- 17 都城郷土館館長瀬戸山計佐儀氏来館。
- 19 本田安次氏来館、谷川健一氏来館。
- 20 ①尚裕氏より寄贈された玉陵石獅子レ  
プリカ2体の開梱（尚裕氏来館）。  
②国立民族学博物館助教授栗田靖三氏  
琉大饒平名、比嘉両氏の案内で来館。
- ③東海民俗学会会長堀田吉雄氏一行來  
館。
- 21 博物館協議会開催。
- 54年  
1. 4 ①静岡県「青年の船」団体見学。  
②伊藤勝一氏より「六諭衍義」3種類  
(5冊) 古銭3個他の寄贈うける。
- 8 当蔵保育園園児前庭においてタコ揚げ。
- 10 第1回高校生「博物館で描こう」作品  
展示オープン（2月20日まで）。
- 11 文化庁美工課山本調査官辞令書調査の  
ため来館。
- 13 沖縄市比屋根より石厨子搬入。
- 14 首里の路次楽保存会（於ホール）。
- 16 入館料にかかる条例改正案府内審議。
- 20 ①スペイン大使来館。  
②日本第4紀学会シンポジウム（於ホ  
ール）。
- 21 日本第4紀学会発表シンポジウム（於  
ホール）。
- 22 人間国宝安部栄四郎氏、文化庁美工課  
調査官柳橋氏ら来館。
- 24 岡本太郎氏来館。
- 1.26 ①第25回文化財防火デー（当館第3回）  
防火訓練実施。  
②具志川市教員の申出により市博物館  
建設について栗国朝光同市文保審委員  
長一行と当館職員の話合い。
- 27 第59回文化講座「読谷山花織のはなし」  
講師渡名喜明学芸員。
- 31 岡山大学教授近藤義郎氏来館。
2. 2 外間安真氏より書軸一幅寄贈うける。
- 5 ①大里喜誠氏より両親の180通の辞令  
書類寄贈され、贈呈式を行なう。  
②尚裕氏より寄贈された玉陵の石獅子

- レプリカの贈呈式を行なう。
- 6 ①米国の篤志家より寄贈された小橋川仁王作陶器の贈呈式、James R Brown  
米国空軍司令官、同総領事立ち合う。  
②大蔵事務次官大倉真隆氏来館。
- 9 文保審天然記念物専門会会長加藤陸奥雄氏来館。
- 10 ①平安博物館友の会のメンバー来館。  
②沖縄民俗研究会。
- 13 国立歴史民俗博物館準備室長井上光貞氏同栗原治夫氏来館。
- 17 第60回文化講座「琉球の石造建築」講師又吉真三氏。
- 19 修理技技術者協会講習会。
- 20 ①北九州市立自然史博物館開設準備室次長太田正道氏来館。  
②東京経済大学教授色川大吉氏来館。  
③特別講演「土器の話」講師佐原真氏（奈文研集落遺跡研究室長）  
④文化庁技官稻田考司来館。
- 21 煙蒸（22日まで）
- 24 沖之永良部島医師吉松軍八氏一行、琉大名誉教授仲宗根政善氏の案内で来館。
- 27 ブラジル連邦共和国駐日大使Ronaldo Costa氏来館。
3. 1 ①東大教授大林太郎氏来館。  
②博物館協議会開催  
③首里高校染織デザイン科卒業作品展（4日まで）。
- 6 宮崎県立総合博物館学芸課主任荒木徳藏氏来館。
- 8 ①国立国会図書館連絡部長県立図書館長の案内で来館。  
②那覇地区高校美工クラブ合同作品展オープン（11日まで）。
- 10 特別講演「比較民俗学の試み—沖縄民俗の地域性—」講師竹田旦氏（茨城大学教授）。
- 13 首里高校美術科の美術書道展。
- 15 佐賀県立博物館長松崎利彦氏来館。
- 17 文化財修理講習会。
- 24 第61回文化講座「琉球の帰化植物」講師宮城康一氏。
- 25 ①奥田朝造（大阪市）より18点、臼杵尚義（東大阪市）より12点、山本勝吉（八尾市）より4点、井上繁広（神戸市）より1点の化石、岩石、鉱物標本の寄贈うける。  
②民俗研究会（於第2室）
- 26 慈眼院善国乘憲氏より和尚の骨壺3壺（うち一つは獅子型）の寄贈うける。
- 27 琉大写真クラブOB展オープン（4月1日まで）
- 30 成城大学教授野口武徳氏実習生引率のため来館。

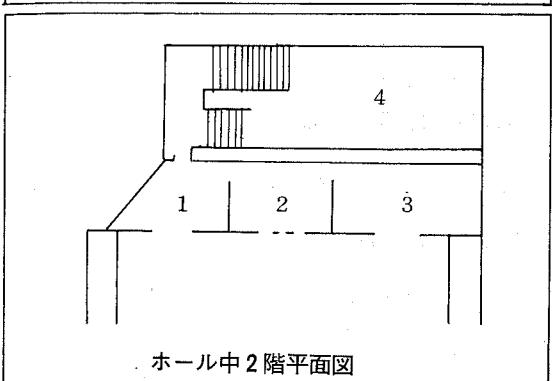
## 施設配置図



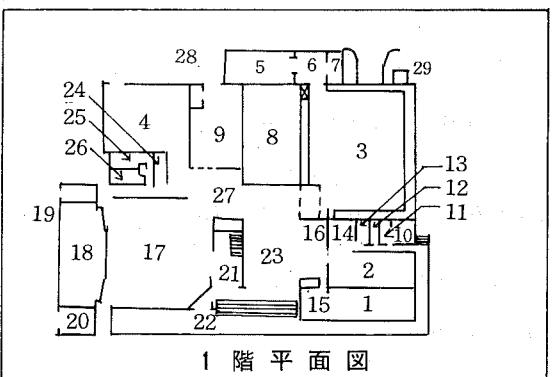
## 施設・設備



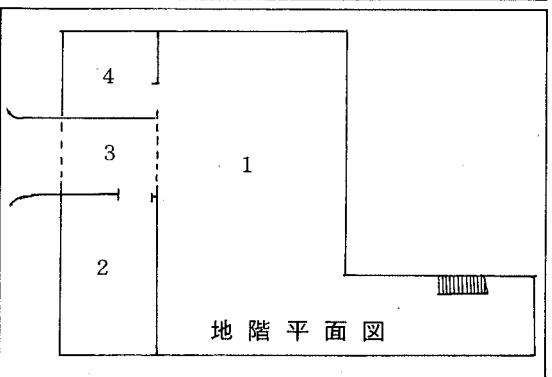
2階平面図



ホール中2階平面図



1階平面図



地階平面図

## ●概要

敷地面積  
建物面積  
(㎡)  
展示面積

11,246 ㎡  
1階 2,328 2階 1,564 地階 401

計 4,293

1階 632 2階 870

計 1,502

513

507

1,190

1,612

(チラー) 圧縮機 22kw × 3 台

冷凍能力 13.2 トン × 3 台

第1室 2.2 kw

第2室 0.75 kw

第3、4室 5.5 kw

第5室 1.5 kw

講堂 5.5 kw

## 空調機

## 変電室

## 契約電力 講堂

電灯 3P 100 KVA × 1 台

1P 30 KVA × 1 台

動力 3P 150 KVA × 1 台

206 kw 業務用電力

客席数 1階 434 席

2階 196 席

計 630 席

デスク型アンプ 1 台

マイク 3 台

## ●室名と面積

### 2階

### 室番号

室名 面積 ㎡

(第3室) 美術工芸展示室 265

(第4室) 民俗展示室 436

(第5室) 陶磁器展示室 170

ロビー 257

空調室 29

ホール控室 59

化粧室(女) 6

化粧室(男) 11

空調室 12

### ホール中2階

調光室 17

映写室 19

音響効果室 25

### 1階

### 室番号

室名 面積 ㎡

事務室 115

資料室 56

(第1室) 総合展示室 462

(第2室) 特別展示室 170

収蔵庫 120

荷解場 32

漆器収蔵庫 11

中庭 152

厨子収蔵庫 91

宿直室 11

湯沸室 8

化粧室(男) 7

化粧室(女) 9

図書室 28

館長室兼応接室 28

模型コーナー(首里城) 18

講堂(客席) 428

ステージ 116

控室 19

控室 32

講堂出入口 37

守衛室 14

ロビー 256

倉庫 14

化粧室(女) 21

化粧室(男) 17

売店 10

空調室 11

ポンプ室 5

### 地下

### 室番号

室名 面積 ㎡

収蔵庫 285

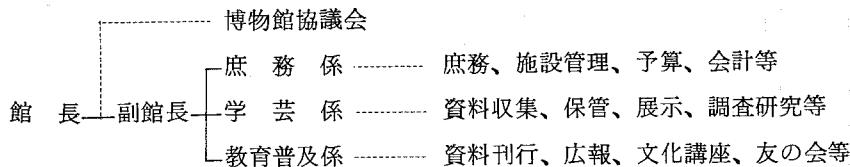
冷房機室 58

荷解場 28

変電室 30

組織

### (1) 機構



## (2) 職員構成

職名	氏名	担当業務	備考
館長	外間正幸	博物館業務の総理に関する事。	
副館長	名嘉正八郎	館長補佐、庶務、施設管理、学芸、教育普及との調整に関する事。	
庶務係長	"	(事務取扱)庶務、施設管理、予算、事業に関する事。	
主事	山口美代子	庶務、才入、予算編成事務に関する事。	
主事	玉村良子	予算決算、会計事務に関する事。	
技師補	賀数朝正	施設管理に関する事。	
用務員	与那嶺善盛	館内外の美化に関する事。	
学芸係長	上江洲均	学芸業務の統轄、民俗、書跡に関する事。	
主任学芸員	大城逸朗	自然系地質、動物、植物、図書受入れに関する事。	
学芸員	渡名喜明	歴史、漆器、染織ならびに展示業務に関する事。	
教育普及係長	宮城篤正	教育普及業務の統轄ならびに絵画、陶磁器に関する事。	
学芸員	知念勇	考古、写真資料、文化講座広報等に関する事。	
主事	松田俊世	理工ならびに友の会等に関する事。	
教育普及補助員	比嘉春美	解説員(委託業務)	
監視	東美智子	第一展示室(委託業務)	
"	西平勝子	第三展示室( " )	
"	金城信子	第四展示室( " )	
"	本部光子	第五展示室( " )	
清掃業務	金城ヨシ	館内の清掃業務( " )	
宿直	玉城篤正	宿直業務( " )	
受付	西平節子	受付業務に関する事(賃金職員)	

(3) 人事異動

主 事	座喜味 よし	小禄高校主事へ転出	54. 4. 1 付
主 事	下地和子	首里高校主事へ転出	54. 4. 1 付

主 事	山口 美代子	県教育委員会総務課主事より	54. 4. 1 付
主 事	玉村 良子	県島尻教育事務所主事より	54. 4. 1 付

教育普及係主事	松田 俊世	庶務係主事より	54. 5. 20 付
技師補	賀数朝正	新採用	54. 4. 1 付

(4) 沖縄県立博物館協議会（54. 4. 27 現在）

委員名簿

学識経験者	真栄田 邦男 外間政彰	那覇市識名 667-4 那覇市松尾 34	34-5535 32-1955	首里高等学校長 那覇市立図書館長
学校教育関係者	福地眩昭 池原貞雄 安次富長昭 高宮廣衛	那覇市久茂地 3-9-12 (沖縄教職員組合) 那覇市松川 261 那覇市石嶺 3-117-10 那覇市寒川 1-23	67-0161 32-4902 55-1653 34-3222	沖縄県教職員組合書記長 琉球大学理学部教授 琉球大学教育学部教授 沖縄国際大学文学部教授
社会教育関係者	宮里 悅 岸本利実 松村 実 池宮城 秀意	那覇市大道 14-10 (婦連) 宜野湾市字野嵩 135 那覇市久米 2-16-16 那覇市大道 354-1	32-5333 098892-2556 68-8249 32-1539	沖縄婦人連合会会長 元県議会文教厚生委員会 委員長 沖縄タイムス社長 琉球新報会長

会長 安次富長昭

副会長 真栄田邦男

## 昭和 53 年度歳入予算・決算額

(千円)

科 目	予 算 額	決 算 額	説 明
(目) 教育使用料	3,526	5,108	
建物使用料	25	25	売店使用料
博物館使用料	3,501	5,083	入館料

## 昭和 53 年度歳出予算・決算額

(千円)

科 目	予 算 額	決 算 額	説 明
(目) 博物館管理運営費	35,909	35,827	
報酬	105	105	博物館協議会委員報酬
賃金	1,205	1,198	資料整理補助員等
報償費	268	267	文化講座講師謝礼等
旅費	676	675	調査旅費等
需用費	7,824	8,722	
消耗品費	405	501	照明用消耗品等
燃料費	37	21	プロパンガス
(食糧費)	69	69	協議会等
印刷製本費	1,570	1,518	紀要・年報等
光熱水費	4,319	4,406	電気・水道
修繕料	1,422	2,199	施設・資料修繕
医薬材料費	2	8	救急薬品
役務費	1,325	1,324	
通信運搬費	489	496	郵送料等
手数料	595	616	燻蒸費等
火災保険料	241	212	建物火災保険
委託料	6,944	6,105	監視、警備、清掃委託
使用量及び賃貸借料	138	34	植木鉢
工事請負費	3,037	3,031	スロープ、収蔵庫棚等
備品購入費	14,343	14,287	
(博物館資料)	10,566	10,669	明皇帝勅書等
負担金補助交付金	44	79	日博協・九博協・沖博協

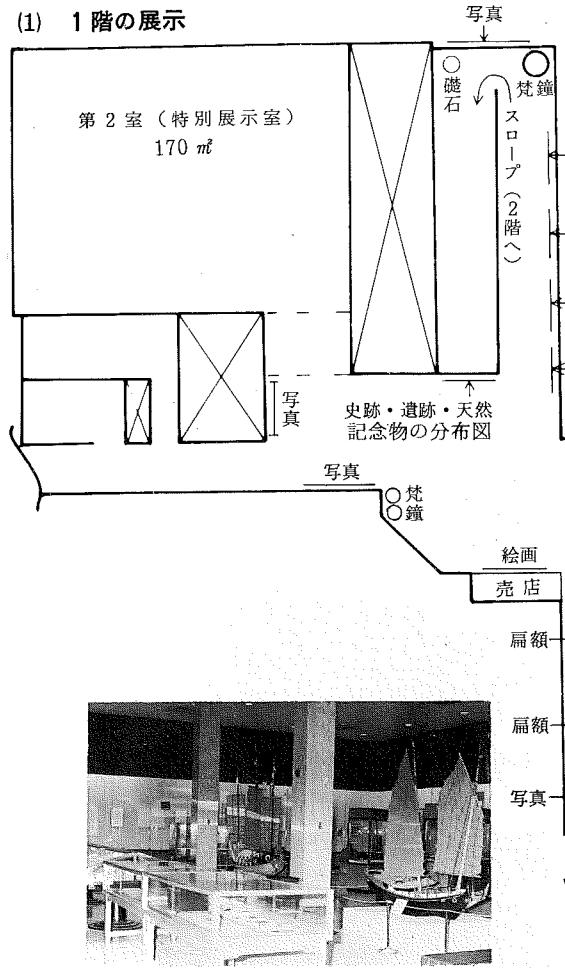


「円覚寺の鐘を鳴らす会」より当館へ  
寄贈された暇鐘楼

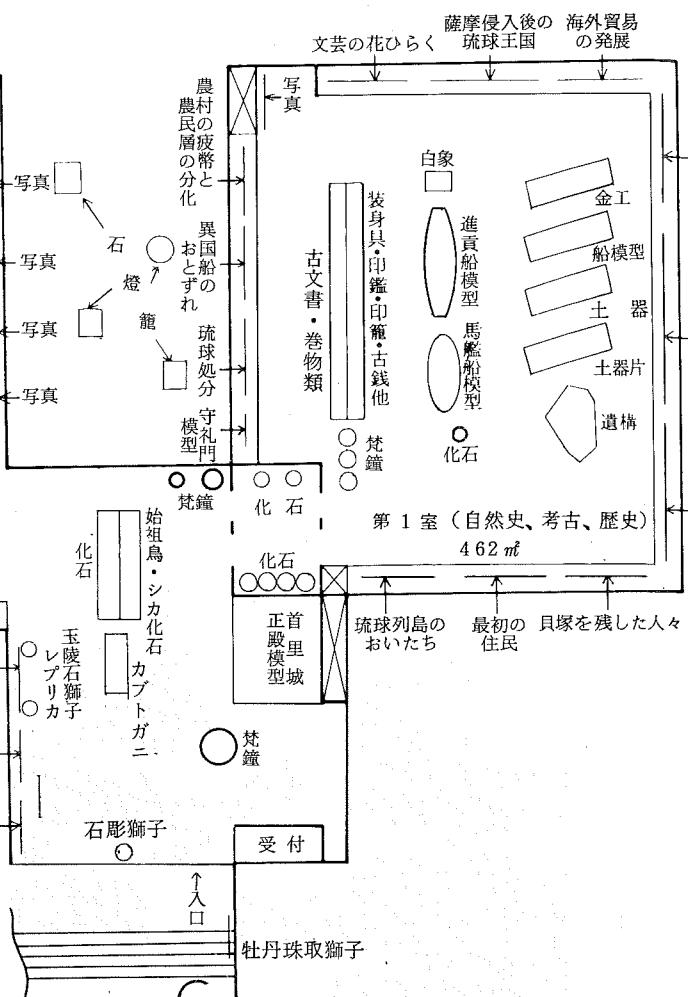
事業

展示（常設展示）

### (1) 1階の展示



第 1 室

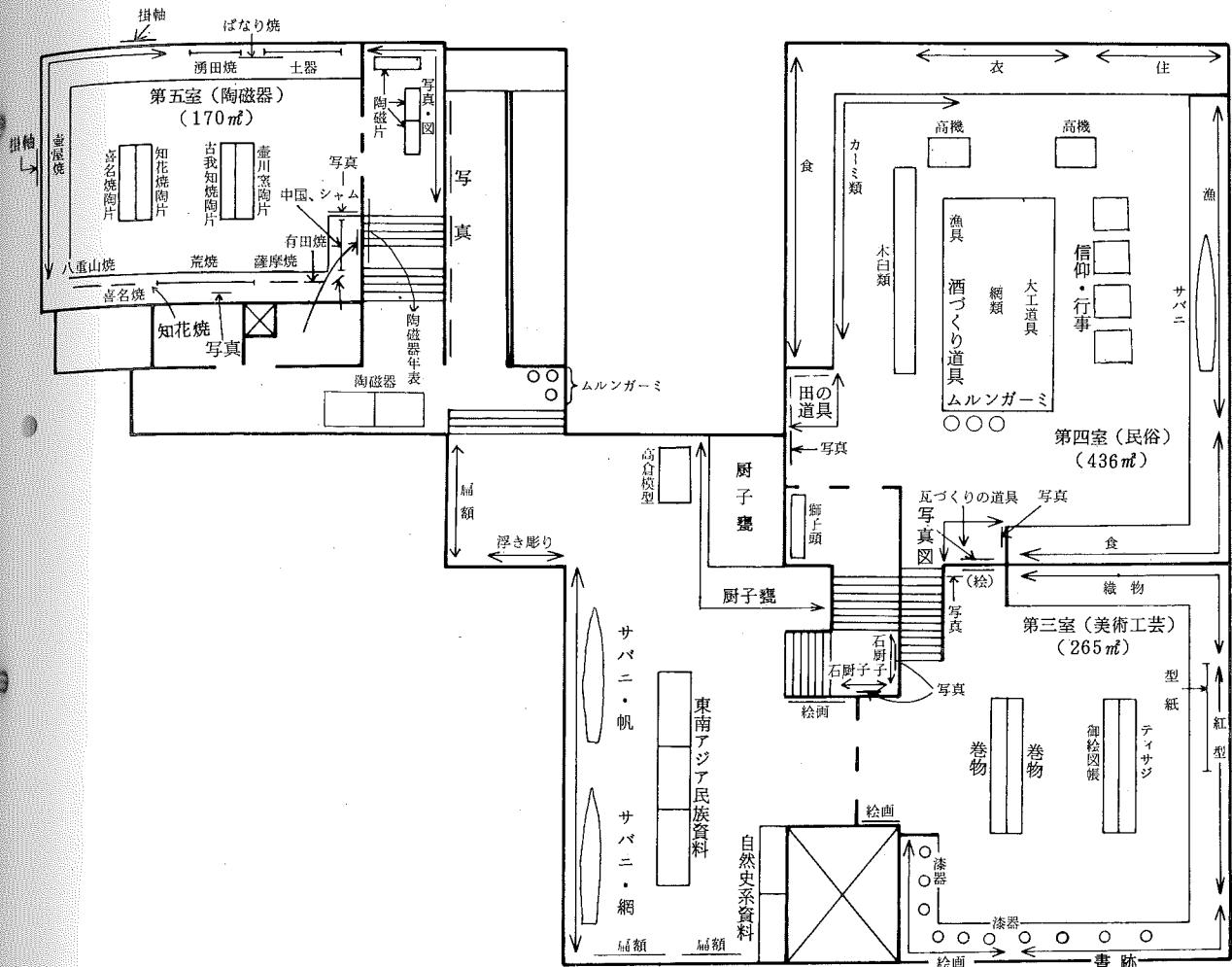


第 2 室



第 3 室

(2) 2階の展示 (常設展示)



第 4 室



第 5 室

# 展示

## (1) 概 略

常設展示は第1室（自然史・考古・歴史）、第3室（美術工芸）、第4室（民俗）、第5室（陶磁器）からなり、第2室は特別展示室になっている。

第1室は自然史・人文の総合展示室ということになっているが、もともと美術工芸中心の展示室であったものが2階増築の結果、総合展示室にかわったものである。したがって壁面全体がガラスケースになっており、しかも奥行が82cmと狭い。そのため、自然史・人文の総合展示にはどうしても不都合なところがある。構造的な問題とともに自然史系担当学芸員が1人（地質・古生物学専門）、歴史担当学芸員1人（考古学専門）という陣容の弱さも手伝って、総合展示の充実には今だ道通しの感がある。しかし、沖縄の自然・歴史・文化に関する常設的な総合展示は、県内の他施設にはひとつもない。その意味でも第1室の内容強化・陣容の強化が望まれる。なお、昭和52年度から始まった展示解説パネルの写植化は第1室が今年度実現して、全室終了した。

沖縄の近代美術の展示も長年の懸案事項であるが、いまだ実現していない。そのための資料購入費をわずかながら毎年組んではいるが、当館の所蔵品だけでは間に合わないのが、実状である。次年度には作品の借用も含めて検討し、実現したい。展示は第5室を考えている。

1階ロビーに玉陵（国指定重要文化財）の石獅子のレプリカ（尚裕氏寄贈）を展示し、2階に東南アジアの民族資料を展示したのも特筆すべき事柄である。なお、正面玄関に展示してあった円覚寺大梵鐘は、円覚寺の鐘を鳴らす会の寄付による鐘楼が完成すると同時に同鐘楼に移された。

当館主催の特別展はいずれも特別展示室（第2室、170m<sup>2</sup>）で催された。とくに「沖縄の天然記念物の動物たち」写真パネル展は、イリオモテヤマネコの一般公開が間にはさまつたこともあって記録的な動員となった。特別展示室と平常展示室の出入口が区別されていないために出入口が混乱したが、これも建物構造の面で再考すべき問題である。この特別展ではチラシを、また山元恵一遺作展、読谷山花織展では図録を発行した。特別展に図録・ポスターは不可欠のものであるが、特別展の都度これを発行できないのが現状である。次年度からは主催する特別展には図録・ポスターを必ず印刷・配布できるようにしたい。

## (2) 特別展

### イ 新収蔵品展

会期：昭和53年6月13日(火)～7月13日(木)

会場：特別展示室（第2室）

昭和52年度に購入、寄贈、収集、寄託された資料を紹介する目的で開催した特別展である。



新収蔵品展

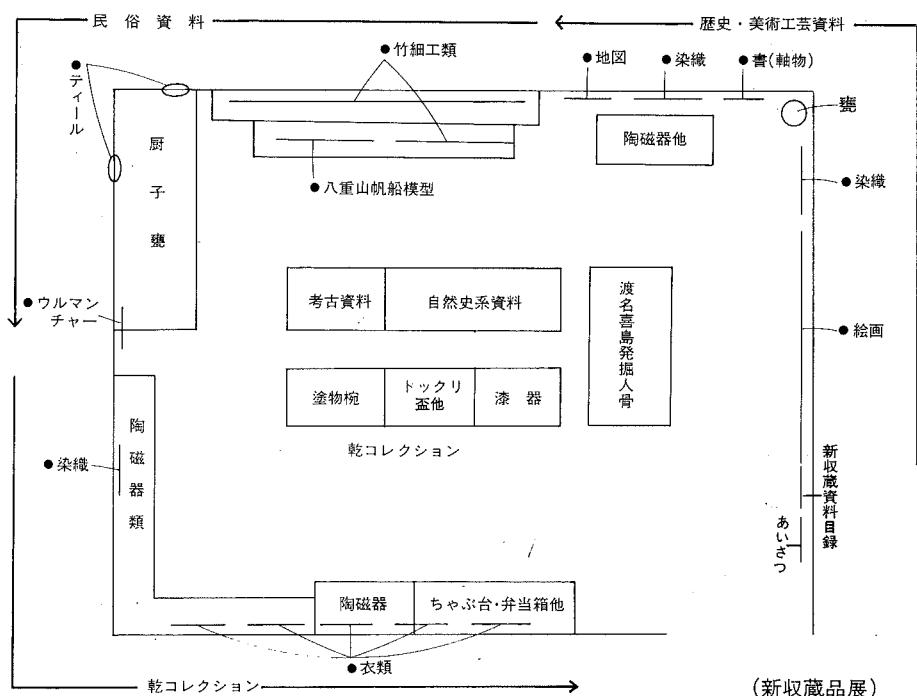
52年度は、未登録のものなどを整理して登録

したこともある、1,291点と多い。そのうち今回の展示品は、絵画3点、書跡3点、染織5点、歴史2点、陶磁器131点、考古資料94点、自然系資料29点、民俗175点、漆器6点の計448点である。

特に今回は、隣県鹿児島県徳之島の乾純之助氏寄贈品200余点や同じく鹿児島在住の伊江カネ氏寄贈の斧山万治郎筆「裸婦」（油絵）をはじめとして、すばらしい資料が展示された。購入品では、地元画家の比嘉華山、長嶺華国、山田真山らの絵、徐葆光書軸物が光っていた。

また寄託を受けた「渡名喜島出土人骨」も貴重な資料であり、展示中も参観者の関心を集めた。

（担当：上江洲均学芸係長、渡名喜明学芸員）



（新収蔵品展）

口 「喜如嘉の芭蕉布—その歩み・工程・作品一展」

主催：喜如嘉の芭蕉布保存会・当館

会期：昭和53年7月25日(火)～8月13日(日)

会場：特別展示室（第2室）

芭蕉布は王国時代には王族・土族から庶民にいたる全階層の衣料として、また礼服・日常着を問わず生活の各場面において着用された。廢藩置県以後も夏物衣料として各地で織られた。なかでも大宜味村嘉如嘉は今帰仁村と並ぶ芭蕉布の産地として県下に知られ、増産の試みや販路の開拓が続けられた。

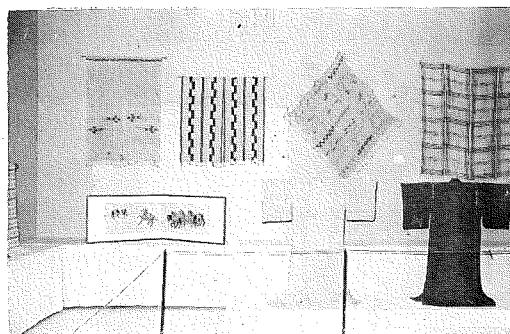
戦後になって衣料事情や生活様式の急変に伴って芭蕉布の生産は激減したが、喜如嘉では平良敏子さんを中心にいちはやく芭蕉布が復活し、品質の向上、製品の開発に努め、昭和47年には県の無形文化財の指定を受け、昭和49年4月には国指定重要無形文化財となった。

芭蕉布の製作は原料となる糸芭蕉の栽培が始まる。ところが近年バナナセセリ、クキゾウムシなどの害虫が大量発生して糸芭蕉を食い荒らしているため、纖維の量は減り、それが質の低下の原因にもなっている。さらに技術者が高齢化する一方で後継者は少ないとあって、喜如嘉の芭蕉布がかかえている問題は少なくない。

今回の特別展は以上の点を踏まえて「生活の中の芭蕉布」、「喜如嘉の芭蕉布の歩み」、「保存会員・伝承生の作品」、「製作工程」の4部で構成し、約200点の作品、資料を展示了。喜如嘉の芭蕉布の作品展示会はこれまでにも何度か催されたが、その歩みや工程に関する資料も含む展示会は今回が初めてであり、織物関係者ばかりでなく、県内外の多くの見学者があり、好評を博した。

なお、7月29日（土）の午後は第53回博物館文化講座として喜如嘉の芭蕉布保存会長の平良敏子さんによる展示解説が行われた。

（担当：渡名喜明学芸員）

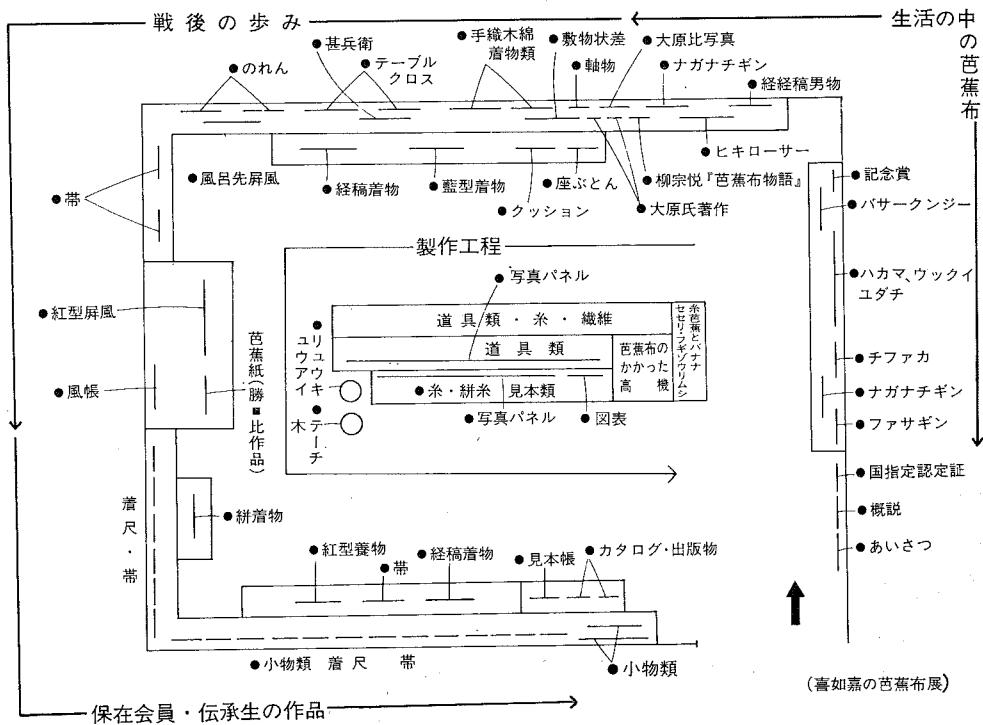


喜如嘉の芭蕉布展

展示資料目録

A. パネル（あいさつ、喜如嘉の芭蕉布）	2
B. 国指定認定証	1
C. 生活のなかの芭蕉布	
ファサギン（茶地紹織）	1
ミゾーシキッキリ（木綿うね織）	1
ナガナチギン（藍格子、格子に縫）	2
チファカ（茶経縞）	1
ハカマ（無地）	1
ウックイ（無地）	1
ユダチ（縫、縞）	2
バサークンジー（縫）	1
経縞男物	1
ヒキマーサー（無地）	1
D. 戦後の歩み	
大原総一郎氏写真	1
柳宗悦著『芭蕉布物語』	1
大原総一郎著『母と青葉苑』	1
『夏の最後のバラ』	1
アルバム「倉敷における平良敏子展」	1
軸物「あゝ喜如嘉」	1

芭蕉布帯	1	G. 製作工程	
木綿格子着物	1	糸芭蕉	3
木綿絹交織着物	1	クキゾウムシ・バナナセセリ	7
同 帯	1	クダ	3
敷物（蘭草併用）	2	苧びきした纖維	7
状差（〃）	2	チング	19
座布団	5	ウーチングバタ（糸巻）	1
クッション	5	クダタティー	1
甚兵衛	1	芋績み後の糸・ウーバーラー	1
テーブルクロス（絣、格子に絣）	2	よこ糸巻	1
藍型着物（城間栄喜作）	1	ハシー（整経用のワク）	1
経縞着物	1	よこ糸の種類	3
のれん（経絣、縞に小鳥、緯絣）	3	たて糸の種類	4
風呂先屏風（紅型、森田永吉作）	1	ニーガシー	2
帯（絣、緯縞に絣）	2	ウバサガラ	5
屏風（紅型、城間栄喜作）	1	ナギグシ	23
芭蕉紙（勝公彦作）	10	テーチ（原木、使用後）	20
E. 保存会員・伝承生の作品		藍甕	2
着物（絣）	1	リュウキュウアイ（鉢植）	1
紅型着物（城間栄喜作）	1	テーチ（鉢植）	1
着物（格子に絣）	1	絣糸	5
着物（経縞）	1	ワク	2
着尺	10	芭蕉布絣の割り出し方法（パネル）	1
帶地	3	染め糸の種類（藍、テーチ、絣）	3
F. 小物・参考資料		綜続	4
ハンドバッグ	2	蔑	5
バッグ	3	マキチャとアジマー	1
小間物入れ	1	害虫に関する新聞記事（パネル）	1
財布	3	芭蕉布生産調査（パネル）	1
ネクタイ	2	芭蕉糸の混紡の研究（見本帖）	1
印鑑入れ	1	高機	1
見本帖	2	すだれ	1
人間国宝新作展カタログ	2		
人間国宝シリーズ『喜如嘉の芭蕉布』	1		
(講談社刊)			



## 八 「沖縄の天然記念物の動物たち」写真パネル展

会期：昭和53年10月3日(火)～29日(日)

会場：特別展示室（第2室）

沖縄県は、地理的に日本の最南に位置することから、日本でも特異な自然を有し、本土全体に匹敵するほどの学術上貴重な動物・植物をもっている。そこで、私達は、こういう動・植物を保護し、後世に伝え残していくために、これらのものにもっと関心を示し、認識を新たにして何よりもまずもっとよく知っておく必要がある。

こういう主旨で、今回は、とくに国、県の天然記念物に指定されている動物をとりあげ、その生態写真を中心とした標本類をも使って紹介した。なお、この展示会期間中に、今世紀最大の発見

といわれ、国の特別天然記念物に指定されている“生きた化石”のイリオモテヤマネコを管理責任者池原貞雄琉大教授の特別のお取り計らいで一般公開し、また、沖縄県の固有種で国指定天然記念物のケナガネズミを琉球大学農学部風樹館のお取り計らいで一般公開した。

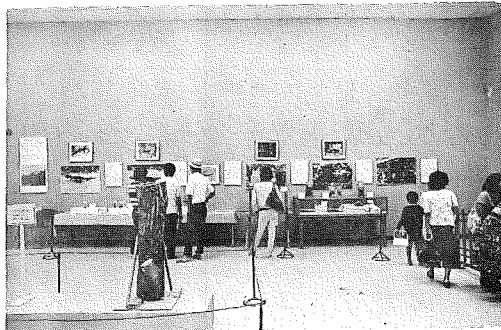
とくに、生体標本の展示については、多くの観客にさらされ、その結果生じるストレスの影響を考慮してイリオモテヤマネコを10月7日～8日(日)、と14日(土)～15日(日)に、ケナガネズミを21日(土)～22日(日)、28日(土)～29日(日)に公開した。

イリオモテヤマネコの一般公開日には、観客が早朝から博物館前に蛇行した列をつくり、さらに館外にまでおよび大盛況であった。この特別展を観覧したのは、延35,000人で、会場整理のために延58人のアルバイト学生の応援を得

た。また、展示期間中には、天然記念物の動物についての問い合わせも多く、新聞紙上では「……県は、天然記念物を理解してもらうため、初めてのキャンペーンをした……。今後もとりくんではほしい……」などの要望がだされるなど、天然記念物について、かなり啓蒙でき、認識していただいたものと館員一同自負している。

なお、特別展の最終日には、池原教授による同名の文化講座を行ったが、大変好評であった。

この特別度を開催するにあたり、次の方々から写真や標本類を提供していただいた。お名前を銘記してお礼にかえさせていただく。



沖縄の天然記念物の動物たち写真パネル展

- 池原貞雄（琉球大学理学部教授）
- 東 清二（琉球大学農学部助教授）
- 与那城義春（県立石川高校教諭）
- 下謝名松栄（県立浦添高校教諭）
- 友利哲夫（県立本部高校教諭）
- 当山昌直（県立大平養護学校教諭）
- 又吉盛健（県教育庁文化課非常勤）
- 千木良芳範（ハブ委託研究員）
- 琉球大学農学部風樹館
- 座間味村教育委員会
- 県広報課

（担当 大城逸朗主任学芸員）

#### 展示品目録

1. 動物写真パネル 37 点

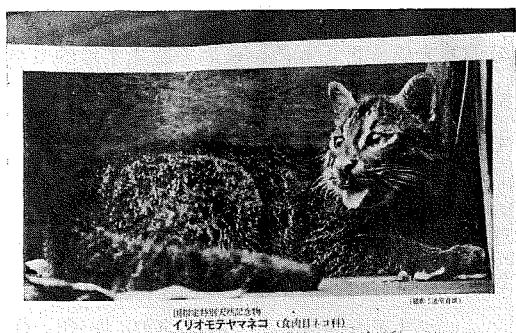
2. 解説パネル 29 点

#### －生体－

3. イリオモテヤマネコ
4. ケナガネズミ
5. セマルハコガメ

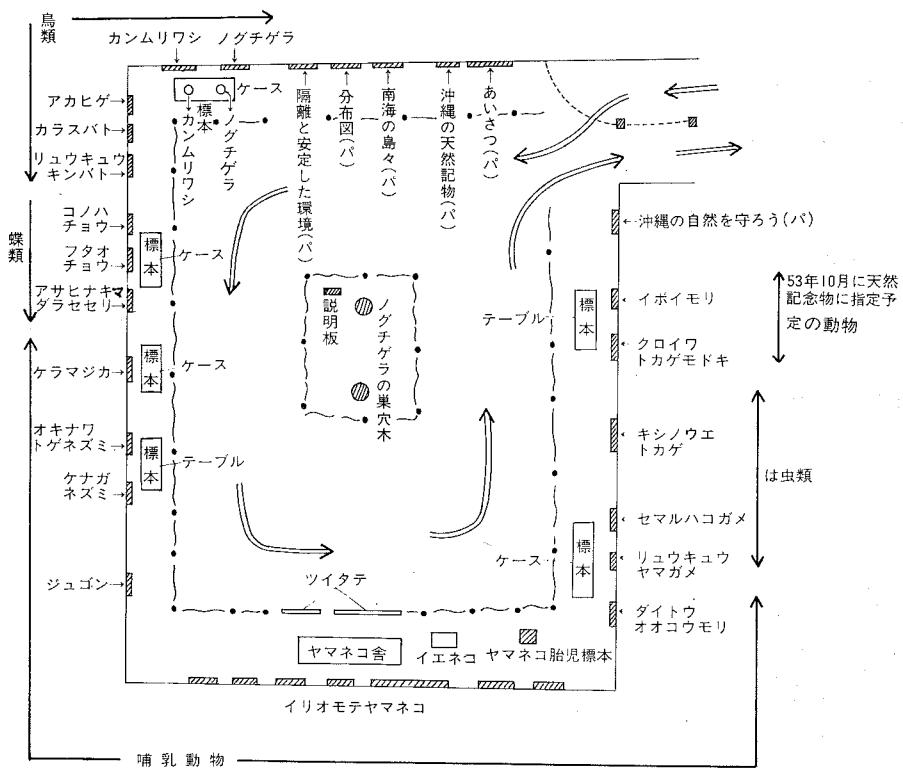
#### －標本－

6. イリオモテヤマネコの液浸
7. ノグチゲラのはく製
8. ノグチゲラの巣穴木 2 点
9. ケナガネズミの液浸
10. オキナワネズミの液浸とトゲ皮
11. ダイトウオオコウモリのはく製と液浸
12. セマルハコガメの液浸と遺がい
13. リュウキュウヤマガメの液浸
14. ケラマジカの角と遺がい
15. カンムリワシのはく製
16. 化石ジカの角
17. ケナガネズミの下がく化石骨
18. フタオチヨウ 2 点
19. コノハチヨウ 7 点
20. アサヒナキマダラセセリ 4 点



国指定天然記念物  
イリオモテヤマネコ（東南日本固有種）  
学名：マクドナルド・イリオモテヤマネコ

## 『沖縄の天然記念物の動物たち』写真パネル展 展示配置計画



### ニ 山元恵一遺作展

会期：昭和52年12月6日(水)～12月15日(金)

会場：特別展示室（第2室）

山元恵一遺作展は沖縄画壇で活躍した同画伯の偉業を偲ぶとともに、後進を励ます目的で当館と同展実行委員会の共催により開催したものである。

戦後の沖縄画壇は廃墟の中から一歩一歩ねばり強く地道な活動を続けて今日の隆盛を見るに到っている。山元画伯はそのなかでも数少ないショールリアリストとして注目され、一作一作に大いに期待が寄せられたが、見事にその期待に応える力作をつぎつぎと発表した。

彼は東京美術学校油絵科を昭和13年に卒業し

て、昭和16年県立第二中学校の美術教諭として奉職した。戦後はいちはやく屋部憲氏等と共に沖縄美術家協会設立のために奔走し、また沖展創設当時から運営委員として参加して、作品発表はもとより、審査ならびに会運営にあたっても多大な貢献をしてきた。

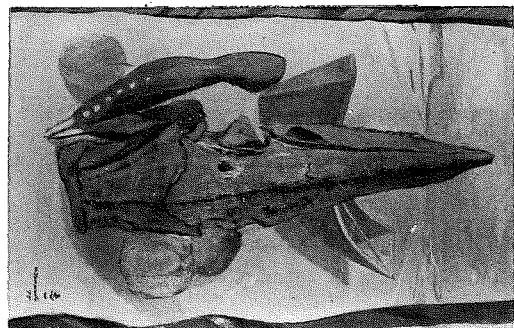
昭和25年、首里高校教諭を経て、昭和27年琉球大学美術工芸科助教授（のち教授に昇格）となり多くの後進を育てた。

一方、1968年から4年間にわたって当館の運営協議会委員をつとめ、博物館活動に対しても尽力された功績がある。

同遺作展会場には生前の山元画伯の人格がそのままにじみ出た作品の数々が展示され、会場

を訪れた観覧者に強い感動を与えていた。なお、この遺作展開催を記念して、ご遺族の山元文子氏より「岬」(F40、油絵)が当館に寄贈された。

(当館担当:宮城篤正教育普及係長)



山元恵一氏作品

### 出 品 目 錄

No.	題名	年 代	寸 法 (号 数)	所有者 (敬称略)
1	覆面のザイナス	1949	49.0 × 57.0	仲泊良夫
2	自転車に乗る少年		48.0 × 35.5	山本文子
3	外人の肖像		41.0 × 31.0	" "
4	ヒロ坊		32.5 × 23.5	" "
5	貴方を愛する時と憎む時	1951	91.8 × 183.2	" "
6	プロムナード	"	100.0 × 72.7	リウボウ
7	～の伝説より	"	100.0 × 80.3	宮里政次
8	アンブレラをもつマヌカン	"	60.0 × 30.7	仲泊良夫
9	森	1954	100.0 × 80.3	山元文子
10	女		100.0 × 80.3	" "
11	女の顔	1955	45.5 × 37.9	大嶺米子
12	ポートレート(少女)	1956	45.5 × 37.9	山元文子
13	母子像	1957	53.0 × 45.5	城間喜宏
14	マガタマと女		65.1 × 53.0	山元文子
15	愉快の日曜日	1963	53.0 × 45.5	" "
16	うの鳥	"	53.0 × 45.5	" "
17	魚2匹		39.4 × 31.8	" "
18	港	1964	100.0 × 80.3	" "
19	私たちは誰にも親切にしましょう。	"	100.0 × 80.3	" "
20	祈禱	1965	130.3 × 97.0	" "
21	読書人	"	91.0 × 72.7	" "
22	テレビ	"	65.1 × 53.0	" "
23	幸福をつかむ手	1966	39.4 × 31.8	" "
24	まゆ	1967	91.0 × 72.7	" "
25	春暖	"	91.0 × 72.7	" "
26	月夜	"	91.0 × 72.7	" "
27	生贊	1968	91.0 × 72.7	" "
28	旧慣	"	91.0 × 72.7	" "

No.	題名	年代	寸法(号数)	所有者(敬称略)
29	司祭	1969	91.0×72.7	" "
30	角笛	"	91.0×72.7	" "
31	人の祈り	1970	91.0×72.7	" "
32	南の島の歌	"	91.0×72.7	" "
33	回帰	"	91.0×72.7	" "
34	季節風	1971	100.0×80.3	沖縄タイムス
35	潮騒	"	91.0×72.7	" "
36	花粉	1972	91.0×72.7	山元文子
37	花序	1973	91.0×72.7	" "
38	真珠の涙	"	100.0×80.3	" "
39	魚	"	100.0×72.7	" "
40	カボチャ	"	33.4×24.3	沖縄タイムス
41	魚	"	53.0×45.5	山元文子
42	魚(カレイ)	"	45.5×37.9	" "
43	黄昏	"	22.7×15.8	普天間敏
44	若夏	"	53.0×45.5	山元文子
45	カラジュウム	"	45.5×37.9	" "
46	静物(リンゴ・ブドウ)	"	45.5×37.9	波平昌子
47	イルカ君	"	45.5×37.9	玉那霸清
48	カラジュウム	"	45.5×37.9	山元文子
49	魚	1974	100.0×72.7	" "
50	食習慣の消長について	"	100.0×80.3	" "
51	ペルーの皿	"	53.0×45.5	" "
52	島のうた	"	100.0×80.3	" "
53	静物(リンゴ・トマト・レモン)	"	33.4×21.2	宮城篤正
54	リンゴ	"	27.3×22.0	瑞慶山良博
55	春の岬	1975	91.0×72.7	山元文子
56	魚	"	100.0×72.7	" "
57	岬	"	100.0×80.3	" "
58	静物	"	33.4×24.3	大城精徳
59	静物(リンゴ・トマト・レモン)	1976	27.3×22.0	平安山
60	海馬の海	"	100.0×80.3	山元文子
61	浮標	"	91.0×72.7	" "
62	潮さい	1977	100.0×72.7	" "

### 木 読谷山花識展

会期：昭和54年1月23日(火)～2月14日(水)

会場：特別展示室(第2室)

読谷村立歴史民俗資料館、首里琉染の後援を得て開催した。この特別展は、いわゆる「読谷山

花織」が奄美諸島を含む沖縄の「花織」のなかに占める位置を明らかにし、そうすることで読谷山花織と沖縄の「花織」全体の発展に寄与したいという趣旨で開いたものである。会期中は読谷山花織の関係者や織物関係者、織物愛好家

が訪れ、読谷山花織を初めとする沖縄各地の花織や関連資料に見入っていた。

「読谷山花織」とは、字義からいえばかつて読谷村（旧読谷山）で織られ、現在も織り続けられている「花織」のことをいう。「花織」とは浮糸で「花」模様をつくった絞織のことである。「花織」と呼ばれる織り方、織物は「読谷山花織」を含めて8種あり、奄美諸島から与那国島まで各地に分布している。そのうち読谷村で織られた花織は5種あり、現在では3種の花織が生産されている。ただ、その5種は織り方そのものとしては読谷村独自のものではなく各地に分布していたと考えられる。そのデザインや生産量において読谷村がきわだっていたこと、そして現在も生産が盛んであるということ、この2点に読谷山花織の意義があると思われる。

今回は、読谷山花織とともに奄美諸島から与那国島まで各地に分布する花織の資料もあわせて展示し、比較のための資料とした。そのため資料借用は各島・各地域に及んでいる。多くの機関・団体・個人の協力がなければ不可能な特別展であった。なお、1月17日（土）には第59回博物館文化講座として渡名喜明学芸員が展示解説を行なった。

（担当：渡名喜明学芸員）



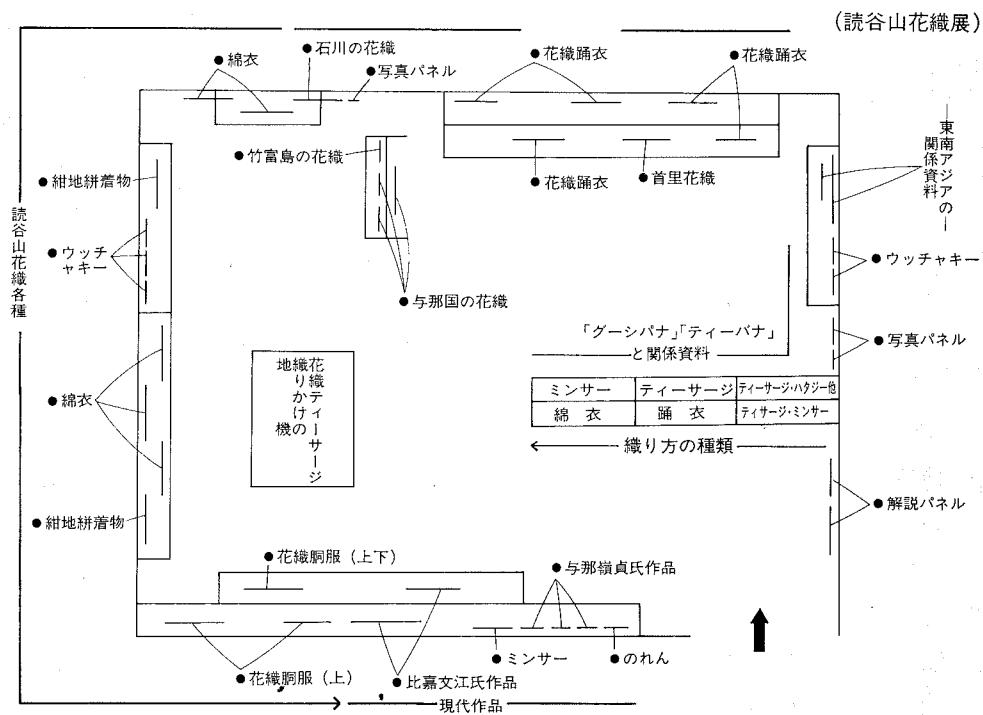
読谷山花織展

#### 出 品 目 錄

1	ミニサー	読谷村 与那嶺 貞氏作
2	ミニサー3点	読谷山花織事業協同組合
3	白地花織ティーサージ5点	当館蔵
4	紺地花織ティーサージ9点	"
5	花織踊着	"
6	花織綿衣 ワタヂン	"
7	◎ミニサー2点	石川市 伊波カマ氏作
8	◎メンソー帯	鹿児島県大島郡宇検村教育委員会蔵
9	◎ミニサー2点	首里 祝嶺恭子氏作
10	◎紺地花織ティーサージ	首里 上里オト氏作（大城志津子氏蔵）
11	◎ヌチサージ	当館蔵
12	◎花染ティーサージ	"
13	◎旗地2点	徳之島伊仙町 永田まつ氏蔵
14	◎黄色地五色浮織裂（パナフ）	当館蔵
15	◎写真パネル3点（沖永良部島和泊町の「サジ」）	"
16	◎写真パネル2点（与論町の「シュバサジ」）	"
17	◎花織ウッチャキー	沖縄市知花公民館蔵
18	花織ウッチャキー	読谷村 波平栄次郎氏蔵
19	◎浮織貫頭衣（台湾製）	首里琉染蔵

20	◎ 浮織腰衣（フィリッピン製）	祝嶺恭子氏蔵
21	◎ 幾何模様浮織（台湾製）	首里琉染蔵
22	◎ 幾何模様浮織 2点（インドネシア製）	首里琉染蔵
23	花織綿衣	読谷村 島袋喜美子氏蔵
24	花織綿衣	読谷村 比嘉タケ氏蔵
25	◎ 花織着物	当館蔵
26	◎ 花織胴衣	沖縄市 池原 節氏蔵
27	花織綿衣	当館蔵
28	◎ 花織上下衣	沖縄市 池原清正氏蔵
29	◎ 花織ドゥタティ	与那国町 德吉マサ氏蔵
30	◎ 板花織ディンカティ 2点	与那国町 崎原初子氏蔵
31	◎ 板花織シダレ 2点	石垣市立八重山博物館蔵
32	◎ 板花織シダレ	与那国町 德吉マサ氏作
33	◎ 花織ティーサージ（竹富島製か）	当館蔵
34	写真パネル 2点（奄美大島本島の花織）	“
35	花織着物	石川市 伊波信光氏蔵
36	花織綿衣	首里琉染蔵
37	花織綿衣	読谷村立歴史民俗資料館蔵
38	◎ 木綿紺地絹綿衣	読谷村 山内トキ氏蔵
39	花織ウッチャキー	読谷村 曽根信一氏蔵
40	花織ウッチャキー	読谷村 比嘉タケ氏蔵
41	花織ウッチャキー	首里琉染蔵
42	花織綿衣	当館蔵
43	花織綿衣	首里琉染蔵
44	花織綿衣	当館蔵
45	木綿紺地絹着物	首里琉染蔵
46	花織胴服上衣	読谷村 曽根信一氏蔵
47	花織胴服上衣	読谷村 山内ウシ氏蔵
48	花織胴服	読谷村 曽根信一氏蔵
49	花織着物	読谷村 比嘉文江氏作（比嘉シゲ氏蔵）
50	花織着物	読谷村 比嘉文江氏作
51	花織着尺 3点	読谷村 与那嶺貞氏作
52	花織ティーサージ 2点	読谷村 与那嶺貞氏作
53	花織のれん	読谷村 池原ケイ子氏作
54	織りかけの花織ティーサージと地機	首里 大城志津子氏

注 ◎ どあるのは参考資料のことである。



## 第2室展示一覧

会期	展示会名	主催
昭和53年 4.5～4.27	東南アジア古代布展	首里琉染
6.13～7.13	新収蔵品展	当館
7.25～8.13	喜如嘉の芭蕉布展	喜如嘉の芭蕉布保存会・当館(共催)
9.5～9.10	水墨画と陶器展	奥原崇典・崇仁
10.3～10.29	沖縄の天然記念物の動物たち写真パネル展	当館
11.2～11.5	沖縄県芸術祭工芸展	県教育委員会
11.10～11.15	同美術展	同上
11.17～11.22	新象選抜沖縄展	沖縄新象作家教会
11.23～12.3	第9回赤土会展	赤土会

12. 6 ~ 12.15	山元恵一遺作展	山元恵一遺作展実行委員会・当館(共催)
昭和54年 1.23 ~ 2.14	読谷山花織展	当館
3. 1 ~ 3. 4	染織デザイン科卒業作品展	県立首里高等学校
3. 7 ~ 3.11	那覇地区高校美術クラブ・工芸クラブ作品展	那覇地区高校美術工芸クラブ連盟
3.13 ~ 3.15	書道習作展	県立首里高等学校
3.26 4. 1	琉大写真クラブOB作品展	琉球大学写真クラブOB

## 2. 調査研究活動

本年度の調査研究活動を概観してみると、県内では、沖縄島のはるか東の大東諸島から西の尖閣諸島まで、さらに県外においては奄美諸島、外国では台湾までと広範囲におよび、その成果は学術団体の出版物やその他の報告書に発表され、収集資料は特別陳列をしたり、新収蔵品展などで一般に公開された。

また、県内での主な調査研究としては、洞穴調査、絵画調査それに遺跡発掘調査などが県教育委員会の依頼で行なわれ、それぞれの調査結果は、洞穴実態調査報告書、県内絵画調査報告書などの出版物となって報告されている。

次に本年度内(昭和53年4月～昭和54年3月)の調査研究を簡単に述べる。

### (1) 調査研究活動の状況

名嘉正八郎(副館長)

6月：城跡保存管理計画策定書作成(今帰仁村、依頼、27～28日)

7月：城跡保存管理計画策定書作成(今帰仁村、依頼、14日～15日)

8月：具志川島遺跡群第三次発掘調査(伊是名村具志川島、依頼、7～11日)

“：城跡保存管理計画策定書作成(今帰仁

村、依頼、20～22日)

11月：城跡保存管理計画策定書作成(今帰仁村、依頼、9～10日)

上江洲 均(学芸員)

7月：アミ族民具調査(台湾、依頼、9～21日)

11月：種子取祭の調査(竹富町、23～26日)

12月：イザイホー調査(知念村久高、依頼、12～19日)

3月：民族学資料に関する情報の収集・交換の進め方について(大阪、依頼、26～28日)

宮城篤正(学芸員)

2月：絵画・陶磁器調査(南大東島、1～4日)

“：浦添市史資料調査(鹿児島・宮崎県、依頼、13～17日)

大城逸朗(学芸員)

5月：地質図作成の基本調査(波照間島、依頼、8～13日)

7月：洞穴調査(宮城島、依頼、5日)

“：洞穴調査(本部町・今帰仁村、依頼、22～28日)

8月：洞穴調査(久米島、依頼、8～12日)

“：貝塚発掘調査(沖縄市室川、依頼、24日)

9月：貝塚発掘調査(石垣市、依頼、4～6日)

10月：地質調査および資料収集(具志川市、24日)

11月：洞穴調査（国頭村、依頼、22-25日）  
 3月：地質調査および資料収集（読谷村、7日）  
 “：自然調査および資料収集（尖閣諸島・魚  
 釣島、9-14日）  
**渡名喜 明**（学芸員）  
 7月：芭蕉布調査（大宜味村喜如嘉、12-13日）  
 12月：染織・民俗調査（奄美大島・与論島、1  
 -5日）  
**知念 勇**（学芸員補）  
 6月：貝塚発掘調査（大宜味村喜如嘉、依頼、  
 16-17日）  
 7月：長浜貝塚発掘調査（読谷村、依頼、3-  
 5日）  
 8月：室川貝塚発掘調査（沖縄市、依頼、2日  
 -9月3日）  
 11月：遺跡分布調査（玉城村、依頼、16-18日）  
 “：遺跡調査（与論島、24-26日）  
 “：グスク分布調査（沖縄市、依頼、13-15  
 日）  
 3月：遺跡調査（種子島・屋久島、10-16日）

## (2) 講演・研修活動および大会参加

**外間正幸**（館長）

- ・沖博協総会・研修会に出席（読谷村、7  
 月6-7日）

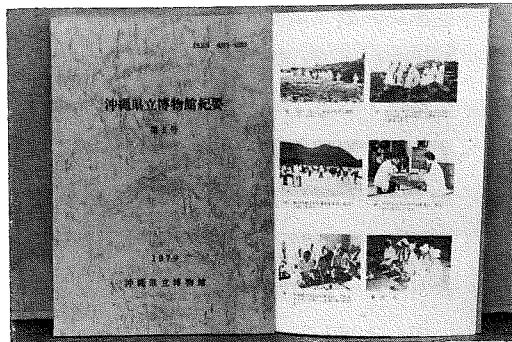
- ・全国博物館大会出席（東京、11月19-23  
 日）

**名嘉正八郎**（副館長）

- ・沖博協総会・研修会に出席（読谷村、7  
 月6-7日）
- ・『首里の文化財』城東小学校P.T.Aで講  
 演（9月30日）
- ・『石造文化について—文化財保護を中心  
 に—』北中城村教育委員会主催「第1回  
 北中城村文化まつり」で講演（11月5日）
- ・『琉球処分と私—黒糖問題を中心に—』

琉大祭で講演（12月2日）

- ・『沖縄のグスクについて』具志川市教育  
 委員会文化講座（2月2日）
- ・『沖縄糖業の歴史』日本銀行沖縄支店で  
 講演（3月5日）
- 上江洲 均**（学芸員）
- ・『年中行事の地域性』九学会連合大会研  
 究発表（東京、5月13日）
- ・沖博協総会・研修会に出席（読谷村、7  
 月6-7日）
- ・「日本学研究に資する資料の共同利用  
 （ネットワーク化）に関する準備研究分  
 担者、協力者会議」に出席（東京、2月  
 27日-3月1日）



沖縄県立博物館紀要第5号

**宮城篤正**（学芸員）

- ・沖博協総会・研修会に出席（読谷村、7  
 月6-7日）
- ・『沖縄の美術工芸について』高等学校美  
 術研究会で講演（10月12日）
- ・『沖縄の美術について』浦添市内校長研  
 集会で講演（10月20日）
- ・『浦添の史跡について』浦添小学校婦人  
 学級で講演（11月13日）
- ・『タイ・ラオス・ベトナムの旅（報告）』  
 かりゆし会で講演（11月17日）

- ・『沖縄の文化と美術工芸』神原中学校婦人学級で講演（3月7日）
  - 大城逸朗**（学芸員）
  - ・沖博協総会、研修会に出席（読谷村、7月6-7日）
  - ・『琉球列島の化石ジカについて』沖縄生物学会で講演（8月23日）
  - ・高教組中部支部第11次教育研究集会で地質巡査案内（10月26日）
  - ・『琉球列島の生物地理』琉大生物学科で講演（11月18日）
  - ・『琉球列島のなりたち』公害衛生研究所で講演（2月16日）
  - (3) 著作・論文その他
    - 名嘉正八朗**（副館長）
      - ・『「琉球処分」関係文献解題』新沖縄文学38号・特集「琉球処分」100年所収
      - ・『今帰仁城の歴史』今帰仁村教育委員会編「今帰仁城跡」所収、1978
      - ・『「砂糖座日記」解題—山下久四郎氏旧蔵写本—』県立博物館紀要、第5号、1-22、1979。
    - 上江洲 均**（学芸員）
      - ・『台湾アミ族の狩猟と採集の生活』青い海、72号、1978。
      - ・『沖縄諸島における海辺の拝所』えとす、10号、1978。
      - ・『沖縄・奄美における竹の民具について』沖縄民俗研究、創刊号、1978。
      - ・『奄美諸島の年中行事—2、3の事例をめぐって』人類科学、31集、1979。
      - ・『伊平屋島採訪記（その2）』県立博物館紀要、第5号、53-64、1979。
    - 宮城篤正**（学芸員）
      - ・『「琉球の絵画」および図版解説』（共同執筆）県内絵画遺品調査報告書、県教育委員会、1978。
  - ・『沖縄の陶器』沖縄の伝統工芸、県工芸振興センター、1979。
  - ・『県内絵画遺品調査報告』県立博物館紀要、第5号、17-38、1979。
  - ・遺跡調査報告書『古我知窯』文化庁、1979。
  - ・『殷元良、自了、呉師慶、壺屋焼、絵画建築、陶器』世界美術辞典、新潮社、1979。
  - ・『石斧と浦添原遺跡』市史だより浦添No.2、1979。
- ＜創作活動＞
- “春の海辺” 第44回旺玄展へ出品（東京都美術館、1978年5月）
  - “水字貝とポール” 第12回沖縄旺玄展へ出品（沖縄タイムスホール）1978年11月。
  - 大城逸朗**（学芸員）
    - ・『沖縄県波照間島の地形と地質—特に新しいサンゴ礁堆積物に関する』（共著）琉球列島の地質学的諸問題、第3巻、139-146、1978。
    - ・『沖縄島および周辺離島における洞穴実態調査』（共著）県洞穴実態調査報告Ⅱ。県教育委員会、1-96、1979。
    - ・『ケラマジカとその生息地としての地形・地質』ケラマジカ実態調査報告書Ⅳ、県教育委員会、1979。
    - ・『琉球列島に産するマンガンソジュールの化学組成』（共著）県立博物館紀要第5号、1-16、1979。
  - 渡名喜 明**（学芸員）
    - ・『沖縄紅型城間栄喜作品集』解説、京都書院、1978。

- ・『紅型の型置きから仕上げまで一城間栄喜ノートをもとにして(その2)』県立博物館紀要、第5号、39-52、1979.
- ・『紅型』沖縄の伝統工芸、県伝統工芸センター、1978.
- ・『琉球紅型』美しいキモノ、第105集、婦人画報社、1978.
- 知念 勇(学芸員補)
- ・『南島の土器』世界陶磁全集Ⅰ、小学館、1979.

### 3. 資料収集活動

昭和53年度の収蔵点数は、前年度の半数以下の540点であった。しかしながら、今回は優秀資料が多く、充実した年であったと言える。

絵画では、故山元恵一画伯の「岬」、書跡では与儀喜明・キク関係の180枚にも及ぶ「賞状・証書・辞会書類」の寄贈があった。陶磁器では、故小橋川永昌作の「赤絵大壺」をはじめ、「シャム南蛮甕」、米国より寄贈の「戦前壺屋焼の壺」14点等が光っている。

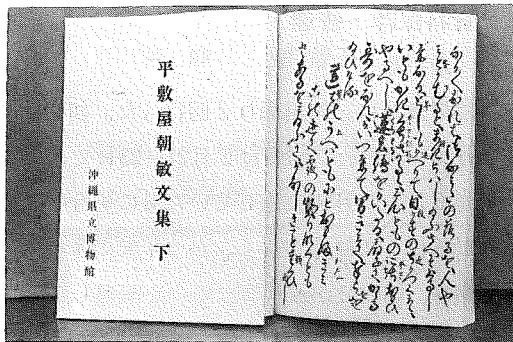
30年間博物館の玄関にあって、52年度に現場へ返された「玉陵石獅子」。関係者のご好意によりそのレプリカが贈られて来た。また書跡では、一研究家によって、長崎県で発見された資料が入った。この例のように県内ばかりでなく、県外からも多数の優秀資料が贈られて来ている。国外では、ハワイや米本国、韓国、台湾などからも資料が寄せられており、この1年間の資料収集は、かなり広範囲にわたったといえそうである。沖縄に寄せられた温かいこころざしに感謝する次第である。

館自体の購入の部でも、県指定文化財「明孝宗皇帝より中山王尚真への勅書」をはじめ、漆器、染織等の貴重な資料が入手できた。自然史系資料では、アンモナイトやマンモス・ナウマ

ン象の臼歯の化石等が入った。

これらの全資料は、去る5月の「新収蔵品展」において一般公開した。今後は適宜に展示し、また研究等に役立てる方針を立てている。

54年度からの資料収集は、総合博物館にふさわしい分類を検討中であるので、その方針にそった収集計画を立てる考えである。



平敷屋朝敏文集下

### 4. 資料整理

戦後30余年にわたって保存した資料の現場への返戻、残欠類等の一応の整理は、52年度に行われた。53年度は、その後を受けて、台帳整理、カード記載等に時間をさいた。

創立以来の分類は、「購入」「寄贈」「収集」「返還」の4項目で、その中でさらに陶器、漆器、織物、書画、木彫、石彫、金属、雑の8項目に分類していた。

それを昭和42.3年ごろから、購入、寄贈、収集、返還別の台帳は廃止し、「雑」を分けてさらに細分類にし、「資料」の項に見られるように、17項目とした。

しかしこの分類も整理統合する必要があり、すでに3・4年前からそのための研究会を持ち検討をすすめている。自然、歴史、考古、民俗、美術工芸、理工等6ないしは7つの大きな柱を設け、おののおの細分類することを考えている。

これは54年度実施を予定している。

「収蔵品目録」は、52年度に3種まで刊行したので、53年度は、継続事業として「館蔵品シリーズ」の1「沖縄の陶器」、2「沖縄の絵画」を刊行することができた。54年度以降も継続して刊行する予定である。

## 5. 資料保存・修理

### (1) 煙 蒸

本年度の煙蒸は、例年通り2回行った。初回は、9月22-24日、二回目は2月21-23日である。例年6月と12月に実施していたものを今年は、統計的にみて観客が少く、かつ年末の休日などと絡み、休館日が連続になるのを配慮して期日を9月と2月にずらして実施した。

煙蒸は、第1収蔵庫、漆器収蔵庫、地下収蔵庫それに大型の首里城正殿の模型については、メチルプロマイド処理を行い、各展示室をはじめその他の場所についてはスミチオン煙霧による防虫駆除を行った。

### (2) 博物館資料の修理

昭和53年度の修理費は76万円の予算が計上され、下記諸資料の修理で全額執行した。

・陶磁器：三巴文入嘉瓶他14点

※口縁部、注口、把手などの欠損部分を修理

・絵画：“琉球人行列図”、“開山自贊之御影”、“蓮に雀”

※琉球人行列図は、軸物から画帳に改めた。開山自贊之御影並びに蓮に雀は剥離箇所の部分修理。

・木彫：円覚寺龍淵殿浮彫羽目（龍点、鳳凰2点）

※保全および展示のため桧の枠をつけた。

・漆器：朱漆牡丹泡紋七宝繫椀

※口縁部欠損および漆面剥離の補修

・考古：無紋平口口縁土器他2点

※復元修理

・書跡：平敷屋朝敏文集

※裏打ち修理

・民俗：砂糖車（サーダーグルマ）

※石車の破損部を接着。

## 6. 教育普及活動

当館の前年度博物館文化講座は4月に第49回「和紙と芭蕉紙」にはじまり、昭和54年3月までに第61回（7月に2回開催）のスケジュールを全部こなしてきた。

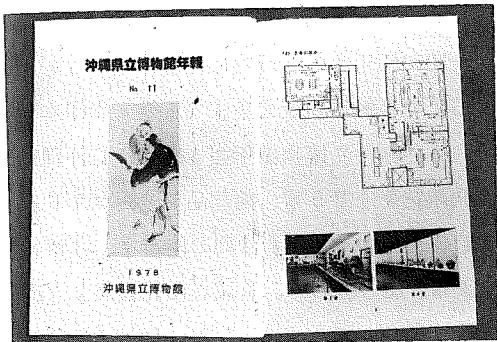
現在ではすっかり市民の間に定着し、また多様な要求にも応えて文化講座の持ち方にもいろいろ工夫をしてきた。たとえば、去年初試みとして高等学校美術クラブの生徒たちを対象として実技講座を開催した。

また、バスを利用して地質見学と貝塚発掘現場の見学等、近い所では徒步による国指定文化財「玉陵」の見学など館外での学習も行なってきた。

更に去年は12年に一度久高島で行なわれている古代神事「イザイホー」の年に当たり、それと時期を同じくして12月に前回の記録映画「イザイホー」映画鑑賞会も開催してきた。

このように文化講座は県民の要求に出来るだけ応えるように努力を払ってきた。

一方、刊行物も前年の実績をふまえつつ、更に今年から館蔵品シリーズ、特別展図録等の刊行も実現出来たので、より県民へのサービスも出来るようになってきた。



沖縄県立博物館年報No.11

### (1) 博物館文化講座

毎月1回、第4土曜日の午後2時30分から2時間、講堂もしくは第二室で開催している。一般市民を対象として沖縄の自然、歴史、文化に関する内容をわかりやすく、よりためになるものを取り上げている。

昭和53年

4月22日（土） 和紙と芭蕉紙 参加者95名

講 師 勝公彦氏（和紙作家）

①和紙のはじまり、②和紙の原料 ③和紙の製造 ④工程 ⑤和紙と洋紙の違い ⑥芭蕉紙と琉球紙、⑦現代の和紙のかかえている諸問題

5月27日（土） 薬草のはなし 参加者80名

講 師 多和田真淳氏（植物研究家）

①薬草のはなし、②薬草の栽培法 ③忘れられた方言名の薬草 ④薬草のききめ ⑤薬草についての質問に答える

6月25日（日） 島尻の地質見学 参加者48名

講 師 大城逸朗学芸員

コース

県立博物館出発 ——車窓見学——島尻層群の観察（下車）——港川のフィツシャー（下車）——琉球石灰岩、傾斜不整合の観察（下車）——帰館

7月17日（日） 博物館で描こう—高校生対

象一 参加者41名

講 師 喜久村徳男氏（沖縄工業高校教諭）

- ①ねらい、②描く物の例、③描写のいろいろ
- ④クブローとして ⑤デッサンをする ⑥クロッキー ⑦着色スケッチ

7月29日（土） 喜如嘉の芭蕉布 参加者

105名

講 師 平良敏子氏（喜如嘉の芭蕉布保存会長）

喜如嘉の芭蕉布展会場において陳列品を中心  
にわかりやすく解説を加えた。



沖縄県立博物館だより 5・6号

8月13日（日） 貝塚の発掘をみよう 参加者48名

講 師 知念 勇学芸員

見学コース

博物館出発 ——沖縄国際大学考古資料室 —→  
大山貝塚 —→（昼食） —→ 室川貝塚の発掘現場  
見学 —→ 帰館

9月16日（土） 琉装について 参加者72名

講 師 真栄平房敬氏（首里中学校教諭）

①琉衣の特色と着付への影響、②琉装の構成、  
③特殊装束、④琉装の変遷、⑤その他

10月28日（土） 沖縄の天然記念物の動物たち 参加者88名

講 師 池原貞雄氏（琉球大学教授）

①国、県指定天然記念物（動物）一覧表

②国、県指定天然記念物（動物）分布略図

11月4日（土） 尚王家の墓「玉陵」見学

らびに石造文化について 参加者90名

講 師 名嘉正八郎氏（当館副館長）

①玉陵ならびに石造文化について、②石造関係  
略年表、③その他関係資料

12月16日（土） 映画鑑賞会 参加者 93名

松田俊世主事担当

記録映画「イザイホー」ほか

昭和54年

1月27日（土） 読谷山花織のはなし

参加者 102名

講 師 渡名喜明学芸員

①沖縄の花織、②読谷山花織とは、などについて  
読谷山花織展会場において列品解説をおりませ  
ながらわかりやすく話して貰った。

2月17日（土） 沖縄の石造建築 参加者91名

講 師 又吉真三氏（一級建築士）

①おもろにみる古い建築、②城壁と城門、③末  
吉宮磴道、④円覚寺放生橋、⑤天女橋、⑥園比  
屋武御嶽石門、⑦たまおどん、⑧その他

3月24日（土） 琉球の帰化植物 参加者48名

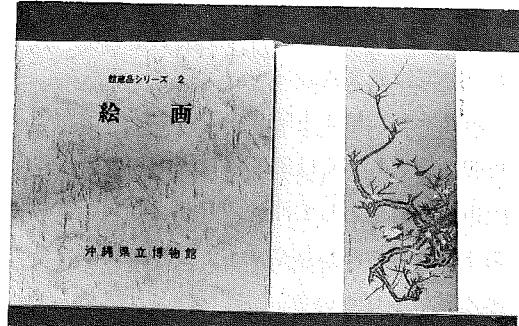
講 師 宮城康一氏（琉球大学助手）

①はじめに、②帰化植物の数、③琉球の帰化植  
物の原産地、④帰化植物の侵入時期、⑤島にお  
ける帰化植物、⑥帰化植物の生育環境、⑦帰化  
植物の特性

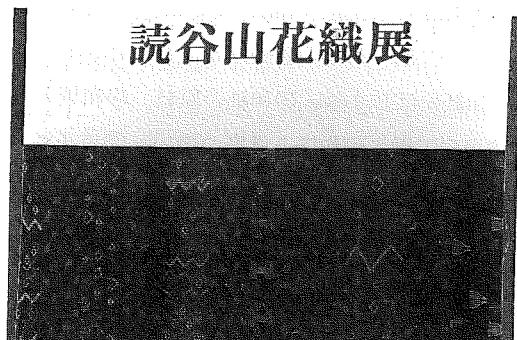
## （2） 広報出版

昭和53年度の刊行物には次のようなものがあ  
る。『平敷屋朝敏文集』（下巻・影印本）

『沖縄県立博物館年報』No.11、『沖縄県立博  
物館紀要』第5号、館蔵品シリーズⅠ『絵画』、  
館蔵品シリーズⅡ『沖縄の陶器』、「博物館だ  
より」No.5、No.6、『読谷山花織展』（図録）、  
『山元恵一遺作展』（図録・同展実行委員会と  
共催）



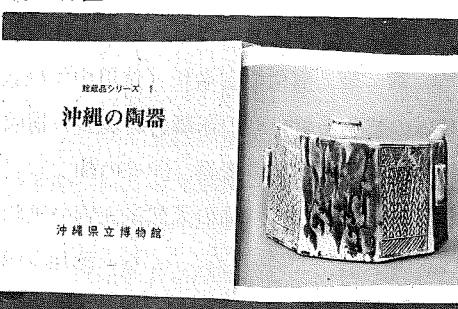
絵画（館蔵品シリーズ2）



読谷山花織展

文化講座、特別展などの催し物は県企画調整  
部広報課、県内のラジオ、テレビ、新聞各社に  
報道を依頼して一般県民への通知、ならびに取  
材等をして貰っている。

また県内外の人々からの資料の利用、内容に  
ついての問い合わせも多いが、その都合、学芸  
員が電話、郵便、面接などで応答をしている。  
場合によっては各担当学芸員が調査研究を兼ね  
て現場へおもむき、指導助言を行なうこともある。



沖縄の陶器（館蔵品シリーズ1）

# 入館者数

## 月別入館者数

上段：入館者総数 下段：無料扱い内訳

項目 月	個　人				團　体				総　数				開館日数	1日平均	
	大　人	学　生	小・中 高　生	計	大　人	学　生	小・中 高　生	計	大　人	学　生	小・中 高　生	計			
53年	4月	7,061 (33)	490	790 (6)	8,341 (39)	1,005 (161)	0	1,219 (39)	2,224 (200)	8,066 (194)	490	2,009 (45)	10,565 (239)	25	423
	5月	5,190 (38)	187	418 (14)	5,795 (52)	1,472 (174)	58	1,902 (174)	3,432 (174)	6,662 (212)	245 (14)	2,320	9,227 (226)	24	385
	6月	3,851 (91)	189	552 (17)	4,592 (108)	1,368 (411)	0	1,898 (26)	3,266 (437)	5,219 (502)	189	2,450 (43)	7,858 (545)	25	315
	7月	4,901 (68)	764	1,120	6,785 (68)	691 (104)	424	186 (20)	1,301 (27)	5,592 (151)	1,188 (172)	1,306 (20)	8,086 (217)	25	324
	8月	7,482 (42)	1,195	2,685	11,362 (42)	544 (23)	84	966 (40)	1,594 (40)	8,026 (65)	1,279	3,651 (40)	12,956 (105)	26	499
	9月	3,233 (48)	366	504	4,103 (48)	329 (139)	306	874 (6)	1,509 (145)	3,562 (187)	672	1,378 (6)	5,612 (193)	20	281
	10月	15,670 (31)	1,010	9,734	26,414 (31)	1,180 (491)	48	2,536 (20)	3,764 (511)	16,850 (522)	1,058	12,270 (20)	30,178 (542)	25	1,208
	11月	8,733 (78)	286	980	9,999 (78)	1,757 (187)	0	5,100 (53)	6,857 (240)	10,490 (260)	286	6,080 (53)	16,856 (318)	24	703
	12月	4,150 (28)	210	447	4,807 (28)	922 (172)		3,198	4,120 (172)	5,072 (200)	210	3,645	8,927 (200)	23	389
54年	1月	4,890 (56)	125	846	5,861 (56)	1,975 (86)	67	47	2,089 (86)	6,865 (142)	192	893	7,950 (142)	23	346
	2月	4,271 (55)	128	437	4,836 (55)	1,276 (81)	0	583 (97)	1,859 (178)	5,547 (72)	128 (28)	1,020	6,695 (100)	16	419
	3月	10,525 (82)	1,237	1,631	13,393 (82)	1,827 (51)	6	2,826 (258)	4,659 (309)	12,352 (82)	1,243	4,457 (258)	18,052 (391)	26	695
	計	79,956 (650)	6,187 (14)	20,144 (23)	106,288 (687)	14,346 (2,080)	993	21,335 (20)	36,674 (566)	94,303 (2,666)	7,180 (2,730)	41,479 (34)	142,962 (3,353)	282	507

## 曜日別入館者数

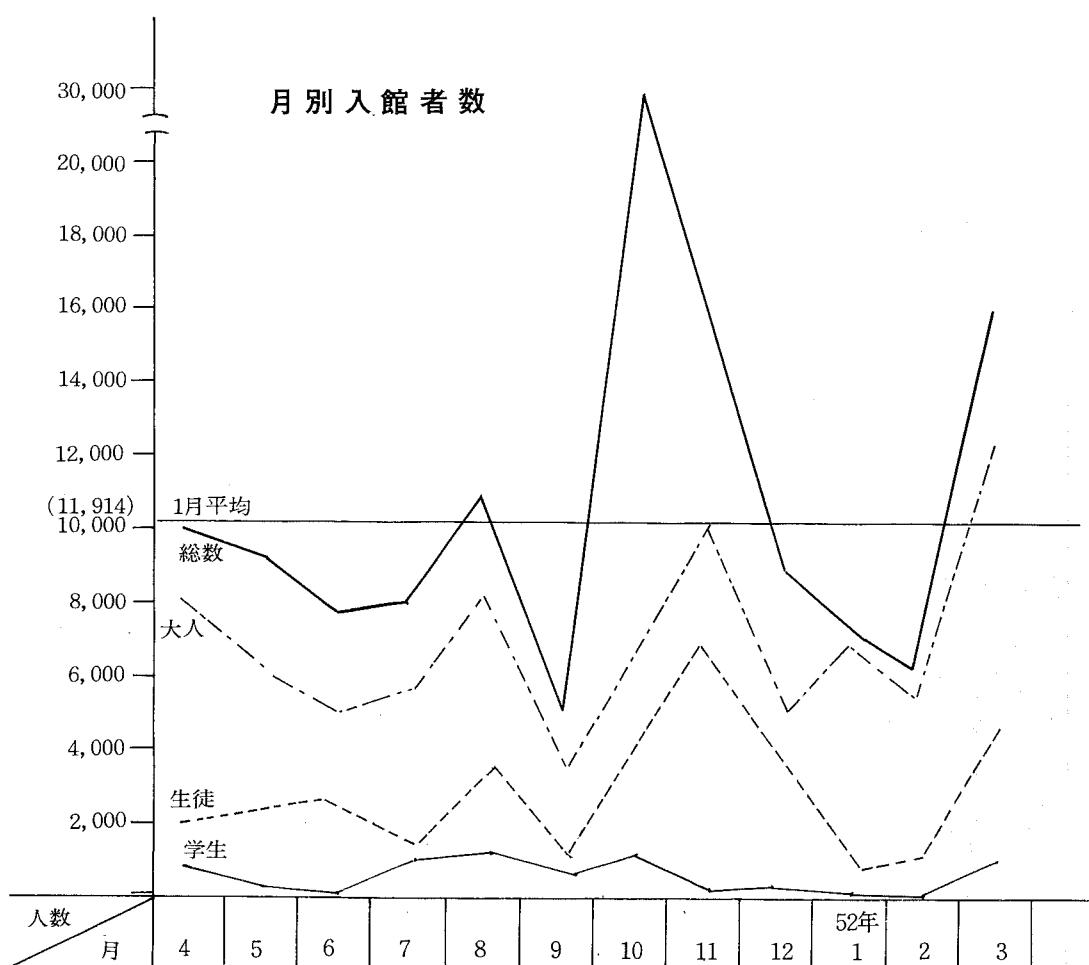
上段：総数 下段：無料扱い内訳

曜日	個　人				團　体				総　数				開館日数	1日平均			
	大　人	学　生	小中高生	計	大　人	学　生	小中高生	計	大　人	学　生	小中高生	計	個人	団体	計		
火	12,068 (103)	809 (14)	1,237 (17)	14,114 (134)	1,841 (394)	154 (20)	5,676 (115)	7,671 (529)	13,909 (497)	963 (34)	6,913 (132)	21,785 (663)	48	294	160	454	
水	11,053 (184)	871	1,436	13,360 (184)	1,258 (463)	67	2,918 (114)	4,243 (577)	12,311 (647)	938	4,354 (114)	17,803 (761)	48	279	89	368	
木	12,020 (137)	912	1,283	14,215 (137)	2,011 (314)	26	4,603 (72)	6,640 (386)	14,031 (451)	938	5,886 (72)	20,855 (523)	46	309	145	454	
金	9,530 (102)	1,030	1,451	12,011 (102)	3,074 (309)	219	4,538 (229)	7,831 (538)	12,604 (411)	1249	5,989 (229)	19,842 (640)	43	280	183	463	
土	13,477 (74)	1,409	3,974 (6)	18,860 (80)	2,371 (248)	438	1,505 (36)	5,413 (284)	15,848 (322)	1,847	5,479 (42)	23,174 (364)	48	393	113	506	
日	21,809 (50)	1,156	10,763	33,728 (50)	3,791 (352)	89	2,095	5,975 (352)	25,600 (402)	1,245	12,858	39,703 (402)	49	689	122	811	
	計	79,957 (650)	6,187 (14)	20,144 (23)	106,288 (687)	14,346 (2,080)	993 (20)	21,335 (20)	36,674 (566)	94,303 (2,666)	7,180 (2,730)	41,479 (34)	142,962 (3,353)	282	377	130	507

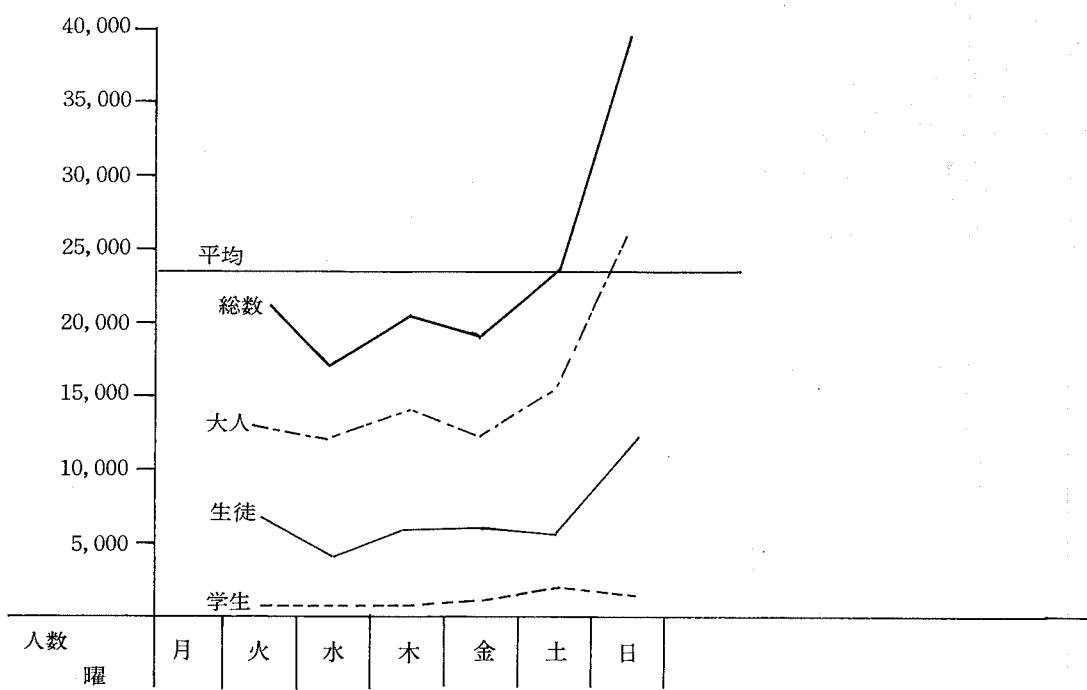
## 団体入館者数

含む無料入館者数

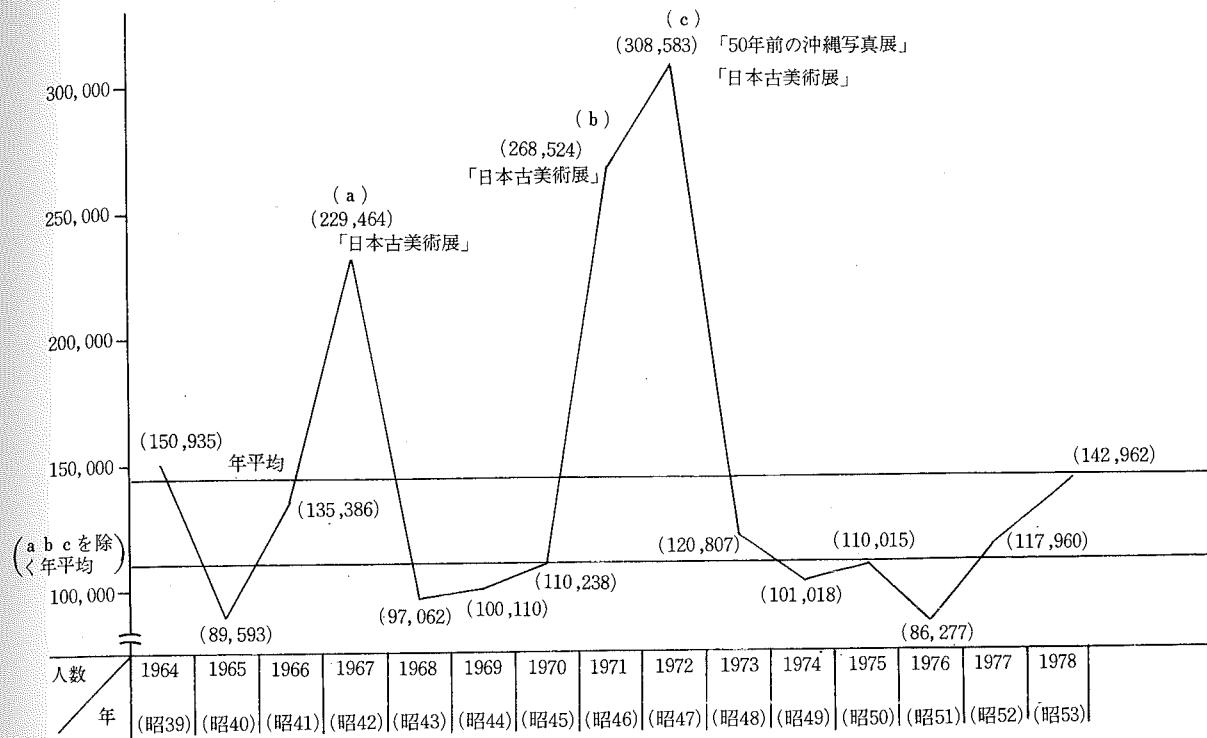
県 内				県 外 {国外(含、沖縄県在住外国人)}				総 数			
人 数	利 用 率	左 の 内 訳	人 数	人 数	利 用 率	左 の 内 訳	人 数	人 数	利 用 率	左 の 内 訳	人 数
13,995	63.6	小中高生	10,558		40.7	小中高生	9,270		50.4	小中高生	19,828
	1.5	学 生	253	22,679	3.3	学 生	740	36,674	2.5	学 生	993
	19.2	大 人	3,184		55.7	大 人	12,669		40.3	大 人	15,853
	15.7	そ の 他	2,601		0.3	そ の 他	65		6.8	そ の 他	2,666
	100	合 計	16,596		100	合 計	22,744		100	合 計	39,340



曜日別入館者数



## 年度別入館者推移



### 入 館 者 数

昭和53年度（昭和53年4月～54年3月）の総入館者数は142,962人。それは52年度より25,002人多く、前年度比で21%の増である。団体入館者数では、県内11.7%減、県外（国外も含む。）37.2%の増になる。構成比では県内42%（昨年度53%）、県（国）外58%（47%）である。これはおりからの観光ブームで来県者が増え、それにともない入館者も増えたであろう。

う。他府県の方々に沖縄の歴史と文化をより良く理解してもらうためには、もっと多くの人々に当館へ足をはこんでもらうようはたらきかける必要がある。また県内の生徒学生及び大人に当館が地域の社会教育機関としてより理解し、活用してもらうためには、当館の出来る範囲で（2、3年に一度でもよい）大規模な特別展等を開催するのも一つの策ではなかろうかと思われる。

# 資料

## 1. 収藏資料現在高

昭和 54 年 3 月 31 日現在

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管	計
絵画	A	55	52	1	0	108
書跡	B	79	260	50	5	394
彫刻	C	11	25	163	0	199
建築	D	4	17	0	0	21
陶磁	E	417	689	256	502	1,864
染漆	F	764	195	12	0	971
工具	G	165	129	114	0	408
歴史	H	10	47	19	0	76
貨幣	I	4	51	2	1	58
音楽・芸能	J	25	496	86	0	607
装身具	K	50	32	0	0	82
民俗	L	68	37	14	0	119
考古	M	446	1,269	68	73	1,856
武器・武具	N	36	502	175	0	713
戦争資料	O	12	17	0	0	29
自然	P	111	6	0	0	117
	X	49	88	6	0	143
計		2,306	3,912	966	581	7,765

## 2. 昭和 53 年度収藏資料

分類	受理次第	購入	寄贈	収集	移管	計
絵画	A	0	2	0	0	2
書跡	B	2	187	1	0	190
彫刻	C	0	3	0	0	3
陶磁	E	1	52	0	0	53
染漆	F	3	9	0	0	12
歴史	G	4	0	0	0	4
貨幣	I	1	14	0	1	16
音楽・芸能	J	0	4	0	0	4
装身具	K	46	0	0	0	46
民俗	L	6	2	0	0	8
考古	M	9	117	5	0	131
武器・武具	N	0	2	1	0	3
戦争資料	O	12	0	0	0	12
自然	P	0	2	0	0	2
	X	17	32	5	0	54
計		101	426	12	1	540

### 3. 新収蔵資料内訳

#### (1) 購入の部

分類	品名	数量	分類	品名	数量
陶磁器	赤絵壺	1	自然	サンヨウチュウ化石ほか3点	4
武 器	六尺棒	2	"	マンモス臼歯ほか5点	6
武 具	サ イ	2対	装身具	首里打簪ほか5点	6
"	鉄下駄	2対	書跡	沖縄の芭蕉紙(特製本)	1
"	鎌	2対	音楽能器	締太鼓ほか45	46
漆 器	黒塗双龍螺鈿盆	1	漆器	朱塗山水楼閣人物箔絵角膳	2
書 跡	明孝宗皇帝より中山王尚真への勅書(県指定)	1	染織	木綿紺地ロートン織着物ほか1点	3
歴 史	琉球地図(元禄9年)	1			ほか2点
民 俗	ヤミ族の碗ほか9点	10			
漆 器	黒塗双龍螺鈿盆	1			
自 然	アンモナイト化石	7			

#### (2) 寄贈の部

分類	品名	数量	寄贈者	住所
陶磁器	あらまかい	1	某 氏	浦添市
"	シャム南蛮壺ほか28点	29	大嶺米子	那覇市
民 俗	肥前焼大甕ほか2点	3	"	"
"	なまはげ装束	2	天王町海洋少年団	秋田県
"	酒徳利	1	某 氏	読谷村
自 然	黄 鉄 鉱	2	安谷屋 正吉	ハワイ
陶磁器	赤絵大壺	1	小橋川 永昌	那覇市
染織	絹縞芭蕉布反物ほか4点	5	渡久地 政保	"
陶磁器	獅子面壁掛	1	島 常賀	"
"	牡丹玉取り獅子	1	宮 城 美能留	"
考 古	須恵器壺	1	渡辺 精三	琉球大学
			新井 武生	"
			大浦 幹男	"
陶磁器	緑釉香炉	1	新田 蒲戸	宜野湾市
染織	芭蕉布絣着物	1	平 良敏子	大宜味村

分類	品名	数量	寄贈者	住所
民俗	ユダチ(胸当)ほか10点	11	平良敏子	大宜味村
"	格子木綿着物	1	宮城ウト	宣野湾市
"	会席膳	2	島袋文雄	那霸市
"	バーキほか1点	2	大城太	勝連村
"	庖丁	1	座喜味シ	那霸市
"	牛鞍ほか44点	45	与儀助	具志頭村
"	骨壺	1	伊波久雄	那霸市
"	ふいご	1	林阿木治	台湾
"	石おもり	1	池宮正治	台北谷村
"	といし	1	平良順	佐敷村
書跡	燕氏の書	1	東恩納千鶴子	浦添市
戦争資料	砲弾	2	真栄城盛仁	北谷村
民俗	酒呑み用竹筒ほか3点	4	某氏	那霸市
貨幣	古銭	1	与座範	"
民考	たばこ盆、厨子甕等	24	宮里政一	"
自然	壺形土器	1	我那霸堅	宣野湾市
歴史	きん青石ほか29点	30	奥田朝宗	大阪市
染織	7・30関係資料(道路標識等)	13	三倉造業	那霸市
民俗	浅地草花文様紅型着物	1	永田子一	"
歴史	神扇、神衣裳、玉	3	浜兼所	宜野湾市
陶磁器	7・30関係資料(案内標識)	1	浦添市役	浦添市
装身具	鉢	1	城間喜	沖縄市
民俗	結び指輪	2	又吉誠	那霸市
染織	芭蕉着物	1	沖野千	鹿児島県町名添
彫刻	木綿紺地経縞着物	1	宮城タウ	浦添市
絵画	牡丹浮彫羽目板	1	伊東祐基、栽子	神奈川県
"	へちまとかぼちゃ(紙本)	1	金山晴江	韓国
"	山元惠一作「岬」(油絵)	1	元文子	那霸市
民俗	裁縫箱	1	宮城光子	浦添市
貨幣	古銭	3	伊藤勝一	京都
書跡	六諭 義大意(上、中、下)その他	5	"	"
民俗	サンゴ石製厨子	5	島袋秋吉	沖縄市
染織	板花織ティサジ	1	徳吉マサ	与那国町
書跡	与儀喜明、キク関係賞状、辞令書類	190	大里喜誠裕	那霸市
彫刻	玉陵石獅子レプリカ	2	尚	"

分類	品名	数量	寄贈者	住所
陶磁器	雲龍貼付文四耳壺ほか	14	プロビンス ヘンリー	米国
書跡	三味線の説(軸物)	1	外間安真	那霸市
民俗	茶盆	1	比嘉文江	読谷村
陶磁器	木葉天目碗	1	奥浜真昌	那霸市
民俗	木臼	1	仲地昌一	"
"	上焼御殿型厨子甕	1	根路銘秀文	"
"	和尚骨壺	2	善國乘憲	"
陶磁器	獅子型和尚骨壺	1	"	"
民俗	焼物製の網おもり	1	岡本恵昭	平良市

(3) 収集の部

分類	品名	数量
書跡	古文書	1
自然	カキ化石ほか4点	5
民俗	香炉	2
考古	古瓦	1
民俗	荒焼壺	1
"	貝殻の鍋研ぎ	2

(4) 移管の部

分類	品名	寄贈者	数量
歴史	7・30関係資料——交通方法変更 案内標識	県交通安全協会	1

#### 4. 新収蔵図書

##### (1) 購入の部

(昭和53年4月～54年3月現在)

書名	著編者	書名	著編者
全国博物館総覧(上、下)	日本博物館協会	生物地理学	徳田御稔
沖縄写真集—うるま	平田 実	脊椎動物の進化上、下	E.H.コルバート
九州のかたち民家	太田 静六 編	伊波普猷全集第7、8巻	伊波普猷
九州沖縄の生きものたち 第1集	池原貞雄 他	日本の自然	地学団体研究会
” 第2集	今井貞彦 他	日本の原始美術全10巻	小林達雄 他
民俗学関係雑誌文献総覧	竹田 旦	沖縄の芭蕉紙	安部栄四郎
中世南島通交貿易史の研究	小葉田 淳	クストー海の百科全20巻	三宅泰雄 他

##### (2) 寄贈の部

(昭和53年4月～54年3月現在)

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
博物館研究 V.12、No.11～V.13、No.11	日本博物館協会	国立科学博物館研究報告 B類(植物学)第3巻第4号、第4巻第1～3号	国立科学博物館 図書課
明治村通信No.90～101	博物館明治村	国立科学博物館研究報告 C類(地質・古生物学)第3巻第4号、第4巻第1～3号	"
薩琉文化第9～12号	鹿児島短期大学	月刊みんぱく1～12月号	国立民族学博物館
民俗文化171～181号	滋賀民俗学会	国立民族学博物館研究報告 第3巻1～3号	"
自治おきなわ248～252号	沖縄県町村会	あるく、みる、きく 第131～141号	日本観光文化研究所
福利おきなわ第7～8号	公立学校共済組合 沖縄支部	見る127～137号	京都国立近代美術館
公済時報11～12月号	"	世界の現代画像50人展	"
奈良県観光254～262号	奈良県観光新聞社 県企画調整部 統計課	沖縄観光速報83～98号	沖縄観光速報社
沖縄の統計No.48～57	岡山民俗学会	名古屋市博物館だより 2～4号	名古屋市博物館
岡山民俗第126～130号	"	岐阜県博物館だより vol.2、No.1～2	和歌山県立 近代美術館
岡山民俗学会々報 99～102号	至文堂	美術館だより第145～156号	北海道立青函 トンネル記念館
日本の美術No.140～150	東京国立博物館	青函トンネル記念館だより No.15～19	北海道立
MUSEUM 1977.12～1978.11	創価学会沖縄支部	三岸好太郎美術館友の会だ より第2号	三岸好太郎美術館
創価学会ニュース 第87～108号	国立科学博物館 図書課	美術館だよりNo.36～39	石川県立美術館
国立科学博物館研究報告 A類第4巻、(動物学)第3巻第4号、第1～3号			

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
明治百年記念館建設調査室 だより No. 1	鹿児島県明治百年 記念館建設調査室	博物館だより No. 19 ~ 21	郡馬県立博物館
資料館だより第 13 ~ 15 号	船橋市郷土資料館	" No. 29 ~ 31	徳島県 "
郷土資料館だより第 28 ~ 29 号	石川県立郷土資料館	" No. 16	市立函館 "
民俗博物館だより vol. 4 No. 1 ~ 4	奈良県立民俗博物館	" No. 11 号	浦和市立郷土 "
市立旭川郷土博物館だより No. 30 ~ 34	市立旭川郷土博物館	" No. 17 ~ 18 号	長崎市立 "
郷土資料館だより No. 3 ~ 4	八王子市郷土資料館	" No. 17	大阪市立 "
県立美術館だより	埼玉県立美術館	" 24	横須賀市立 "
歴史館だより No. 12 ~ 14	茨城県立歴史館	" 4	福井市立郷土歴史 "
県立郷土館だより vol. 9、No. 1 ~ 4	青森県立郷土博物館	" No. 16	新潟県立美術 "
資料館だより No. 3	読谷村立歴史 民俗資料館	" 5	山形大学附属 "
博物館だより No. 1 ~ 4	神奈川県立博物館	"	山口県立 "
文化科学館だより No. 1 ~ 2	佐世保市文化科学館	" No. 249 ~ 251	釧路市立郷土 "
しれとこ資料館だより第 14 号	しれとこ資料館	史料館報第 28 ~ 29 号	国立史料館
市史編集室だより	平良市史編集委員会	大阪市立博物館紀要第 10 号	大阪市立博物館
美術博物館だより No. 35 ~ 39	長崎県立美術博物館	横須賀市立博物館研究報告 21 ~ 24	横須賀市立博物館
博物館だより第 23 ~ 25	埼玉県立博物館	" 資料集 1	"
" 第 11 号	岡山県立博物館	歴史資料館年報 No. 6	福岡市立歴史資料館
芸術会館だより 1 ~ 3	大分県立芸術会館	美術館年報 昭和 51 年度	奈良県立美術館
くすり博物館だより No. 1	内藤記念くすり 博物館	博物館年報 昭和 52 年度	神奈川県立博物館
県立博物館総目録	神奈川県立博物館	" No. 2	平塚市博物館
市史だより浦添創刊号	浦添市企画調整室	資料館年報	九州歴史資料館
開拓記念館だより No. 1 ~ 2	北海道開拓記念館	美術館紀要 第 2 号	千葉県立美術館
博物館だより No. 26	仙台市博物館	美術館々報 No. 3	"
美のたより No. 44	大和文華館	博物館月報 4 ~ 7 月	市立旭川郷土博物館
市立美術館だより No. 12 ~ 13	鹿児島市立美術館	研究報告	"
博物館だより No. 1	石垣市立 八重山博物館	文化財研究所報	奈良国立 文化財研究所
" No. 4	別府大学附属博物館	能面と装束	岐阜県立博物館
美術館だより	富士美術館	多賀城と関連遺跡	東北歴史資料館
博物館だより	岡山県立博物館	船と港のはくぶつかん	横浜海洋科学博物館
歴史資料館報 No. 9	東北歴史資料館	なりた No. 17 ~ 18	成田山史料館
博物館々報 No. 39 ~ 42	佐賀県立博物館	歌川広重「江戸土産」展	"

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
国立民族学博物館要覧 " 館報No.2	国立民族学博物館 "	美術館ニュース美友 第5~6号 ノグチゲラ実態調査速報2)	熊本県立美術館 県教育委員会
国会図書館月報No.179 文化財保存処理センター 通信第2~3号 国立博物館ニュース 368~379号 センターニュース No.159~170 人間博物館リトルニュース No.11~14 リトルワールド研究報告 第1~2号 埋蔵文化財ニュース13~15 博物館ニュースNo.8~13 第41~47号 版画センターニュース No.37~39	国立国会図書館 元興寺文化財 研究所 東京国立博物館 岡山県総合文化 セントラル 財団法人リトル ワールド " 奈良国立文化財研究 所埋蔵文化センター 秋田県立博物館 山形県立 " 現代版画センター 文部省 武蔵野美術大学 北九州市立美術館 沖縄県立伝統 工芸指導所 総合事務局 福岡県文化会館 県教育委員会 同志社大学 " " 県教育委員会	彩美堂ニュースNo.17 伝工指ニュースNo.8~9 伊江島ゴヘズ洞の調査 第2次概報 ろびい 第2~4号 特別定「鉄斎」図録 勝央中核工業団地建設に伴 う埋蔵文化財発掘調査報告 日本の民話 20 徳之島採集手帳No.27 沖縄社会経済統計 (52年度版) 所報創刊号 自然と文化 くにさきの庚申塔 南日本文化第10号 フォンタネージ、ラグーザ と明治前期の美術 文化福島 1~12月 国立科学博物館々報 沖縄の地籍、現状と対策 日本の文様、角と丸 沖縄民話資料第1集 ふるさとへの族 16 宮古郷土史研究会々報 No.12~22 要覧(1975~1976年度) 郷土館報第10号 沖縄の外来宗教 小山富士夫著作集(中) 日本の陶磁 琉球列島の地質学研究第2巻 第23回地方教育行財政 調査報告書 教育年報(昭和51年度) 総合美術雑誌日本美術工芸	彩美堂 県立伝統工芸指導所 伊江村教育委員会 北海道立近代美術館 岐阜県立博物館 岡山県勝央町 教育委員会 学習研究社 徳之島郷土研究会 沖縄総合事務局 県立石川少年 自然の家 平塚市博物館 国東町教育委員会 鹿児島短大附属 南日本文化研究所 東京国立近代美術館 福島県文化センター 国立科学博物館 県土地調査事務局 光琳社 沖縄国際大学 国際情報社 県立図書館宮古分館 県立図書館 津山市立郷土館 弘文堂 朝日新聞社 木崎甲子郎 県教育庁企画室 林進

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
日本の美、その他色とかたち 日本人画家のフランス体験 青い眼・黒い眼	国立国際美術館 "	世界現代工芸 スカンディナヴィアの工芸	"
富田川河床遺跡	島根県立博物館	育英会 25 年のあゆみ	県育英会
日本における砂糖の歴史、 砂糖伝播の先駆者たち 図録「天工開物」と日本の 民具	原野農芸博物館 "	学生名簿	"
美術館年報（昭和 51 年度）	栃木県立美術館	技術情報第 4 ~ 5 号	県工業試験場
八重山小百科	新星図書	太陽（22）江戸大名百家	平凡社
概要	県立沖縄兵庫友愛 スポーツセンター	沖縄婚姻史	宮良高弘
年報（昭和 51 年度）	長崎県立博物館 "	日本人のための昆布の本	大石圭一
収蔵資料目録 2	韓国々立中央博物館	図書館年報（昭和 51 年度）	琉大附属図書館
南城里石棺墓	那覇市役所	年報（昭和 48 ~ 51 年度）	岡山県立博物館
那覇市統計書（昭和 52 年度）	玉城村役場 県労働工商部伝統 工芸課	古農機具類写真目録	東京農業大学図書館
玉城村誌	高尾自然科学博物館	読谷ゆうがおの会 1 号	読谷村立歴史 民俗資料館
沖縄の伝統工芸と近代化	県教育委員会文化課	研究論集	九州歴史資料館
東京都の自然	多田限豊秋	青い海 No. 71	名嘉正八郎
沖縄県の遺跡分布	東京国立近代美術館	教育沖縄 25 ~ 28 号	県教育委員会
九州の石塔	"	美術の森	北九州市立美術館ニュース
素朴な画家たち	"	北九州市立美術館年報 No. 2 昭和 51 年度	北九州市立美術館
浜田庄司展	"	中華人民共和国出土文物集	"
フォンタネージ、ラグーザ と明治前期の美術	"	今西中通展	"
松田権六展	"	ピカソ版画展	"
斎藤義重展	"	第 1 回北九州絵画 ビエンナーレ展	"
現代日本工芸の秀作	"	瑛九 池田満寿夫展	"
フリードリッヒとその周辺	"	豊福知徳展	"
佐伯祐三展	"	エルンスト・ダリ版画展	"
牛島憲その芸術	京都国立近代美術館	ピカソ銅版画 ボラールのための連作集	"
年報（昭和 51 年度）	"	北海道現代美術展第 1 回 具象絵画の巨星	北海道立近代美術館
佐伯祐三展	"	ビエッフェ展	"
沖縄の工芸（英文）	"	神田日勝の世界	"
ヨーロッパのポスター	"	遠いもの、近いもの	"
オスカーココレュカ展	京都国立近代美術館	研究紀要創刊号	"
		エコールド・パリーその周 辺の作家たち	"

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
北海道立近代美術館年報 昭和52年度 炎の凍結 ガラスの美	北海道立近代美術館	沖縄文化研究 5 ボザール 7	法政大学沖縄文化研究所 サロンボザール
岩橋英遠展	"	愛媛県博物館資料総合目録	愛媛県立博物館
北海道立近代美術館 所蔵品目録	"	地獄絵 福沢一郎の世界	国立国際美術館
精進場遺跡	埼玉県立歴史資料館	琉球漆器	徳川美術館
埋蔵文化財発掘調査報告書 下廊遺跡	"	大宰府史跡	九州歴史資料館
埋蔵文化財発掘調査報告書 八幡遺跡	"	昭和52年度発掘調査概報	
都幾川村文化財調査報告書	"	太久磨作品集	
原、清水南	"	今日の韓国	駐那覇大韓民国領事館
埋蔵文化財発掘調査報告書	"	今帰仁村史	今帰仁村役場
和泉山脈の自然	大阪市立 自然史博物館	第32回 新匠工芸展覧会図録	総務課
大阪の昆虫	"	伊場遺跡発掘調査報告書 第3冊伊場遺跡	伊佐利彦
地球は生きものでいっぱい	"	遺物編 I	浜松市教育委員会
チョウはどこから来たか	"	" " 別冊目版	
大阪湾の海岸生物	"	特別展 古代のうつわ	静岡市立 登呂博物館
大阪の自然	"	米づくり 農具の歴史	"
二上山	"	駿河宮川遺跡	静岡市教育委員会
鳴く虫	"	愛媛県博物館資料総合目録 (第1集自然史料 17)	愛媛県立考古館
大阪市立自然史博物館 研究報告31号	"	法政考古学	法政考古学会
自然史研究 No.11~12	"	中津川洞	域川町教委會
地域文化研究第2、3号	地域文化研究会	第Ⅲ次発掘調査概報	那覇教育事務所
自然科学と博物館 第45巻1~4号	国立科学博物館	昭和53年度 教育事務所要覧	岐阜県立博物館
徳川家康	平 凡 社	展示案内	"
石川県白山自然保護 センター研究報告	石川県白山自然保護センター	濃飛の甲冑 特別展	山形県立博物館
はくさん 第6巻1~3号	"	大立洞穴 第三次調査報告	名古屋博物館
青山史学 第5号	青山学院大学文学部 史学科研究室	名古屋市博物館館蔵品目録	九州歴史資料館
日本出土の中国陶磁	東京国立博物館	くらじの里からしらぬいへ	漆工史 學會
東京都高尾自然博物館 研究報告第9号	東京都高尾自然 科学博物館	漆工史 創刊号	京都国立博物館
蒼い海	井 伊 文 子	昭和51年度 京都国立博物館年報	東洋經濟日報社 東京本社
郷土 No.10~16	沖縄大学 沖縄学生文化協会	李朝工芸と古陶の美	天理大学附属 天理参考館
名勝識名園環境 整備事業報告書(1)	名勝識名園 環境整備委員会	祈願小絵馬	船橋市教育委員会
芸術新潮 7	芸術新潮社	船橋市郷土資料館 紀要第1号	鳥取県立博物館
流域環境整備の課題と方法	名 護 市	鳥取県立博物館年報	"
		鳥取県博物館協会会報	

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
鳥取県立博物館研究 昭和 53年 15号	鳥取県立博物館	図録・円空・字秀仏	青森県立郷土館
化石資料目録 3	"	陸奥舟岡の民俗	"
伊江島の村踊り 昭和52年度 国選無形文化財	伊江村民俗芸能 保存会	博物館研究報告自然科学10号	神奈川県立博物館
沖縄史料編集所紀要第3号 人間国宝シリーズ 14 鎌倉芳太郎	沖縄史料編集所 一酒穂株式会社商品第三部西川	第25回全国博物館大会報告書	日本博物館協会
沖縄県史料近代 I	沖縄史料編集所	金沢市の寺社文化財	石川県美術館
沖縄県町村会 30年のあゆみ 八重山石垣島 カンドウ原遺跡発掘	県町村会 会長 伊集 盛郎 石垣市教育委員会	石川県の文化財 アイヌ文化の森 伝承のコタン・年報Ⅱ	"
石器時代の沖縄	沖縄考古学会	市立旭川郷土博物館 所蔵品目録Ⅱ	市立旭川郷土博物館
毒蛇ハブ	前総合事務局長 小玉 正任	南科研資料センター報告 No.20、21	"
業務報告 昭和 51 年度	県立伝統工芸指導所	東北歴史資料館研究紀要 第4巻	鹿児島大学南科 研資料センター
軍用地転用の現状と課題	県企画調整部 軍用地転用対策室	年報 第52年度	東北歴史資料館
日本の人形 頭地下手遺跡 (研究室活動報告)	福山市福山城博物館	球陽研究第1号~2号	"
奈良県立 民俗博物館研究紀要 福岡市立歴史資料館 研究報告第2集	熊本大学法文学部 考古学研究室 奈良県立 民俗博物館	考古学ジャーナル	球陽研究会
茨城県歴史館報	福岡市立 歴史資料館	児島善三郎資料集(一)	浜松市教要
埼玉県立博物館紀要 埼玉県立博物館 展示解説(古美術)	茨城県歴史館	労働力調査報告	福岡市美術館協会
北海道立三岸好太郎 所蔵目録	埼玉県立博物館	学術調査報告書I 大宮町小野天神前遺跡	企画調整部 企画統計課
熊本県立美術館年報	"	民俗学研究所紀要	茨城歴史館
ぼくらの沖縄県 -郷土の地理と歴史-	北海道立三岸好太郎 美術館	奄美資料第8集 奄美大島司中島府関係資料(一)	成城大学 民俗学研究所
第21回 沖縄県統計年鑑	熊本県立美術館	奄美郷土研究会報第18号	鹿児島県立 図書館奄美分校
東京水産大学 水産資料館案内	仲松弥秀、他	山口県の自然	"
武蔵野美術大学研究紀要No.10 郵政省通信博物館 資料図録No.10	沖縄県 企画調整部統計課	研究報告第3号	山口県立博物館
日本古典文学大学 日本書紀(下)	東京水産大学	武藤一郎コレクション図録 考古図録第3集	秋田県立博物館
今帰仁村文化財調査報告第 1集渡喜仁浜原貝塚	武蔵野美術大学	博物館研究報告	"
具志川市文化財調査報告 第1集苦增原遺跡	郵政省通信博物館	別府大学付属博物館完成記 念特別展日本の縄文土器展	愛媛県立博物館
青森県立郷土館調査研究 年報(第3号) 1977	お茶の水女子大 教育学部史学科	特別展図録東洋漆工芸	別府大学 付属博物館
青森県の農具	今帰仁村教育委員会	南島文化研究所報第1号	東京国立博物館
	具志川村教育委員会	とまやと自然第1卷秋の号	沖縄国際大学
	青森県立郷土館	えどげいじゅつNo.4	富山市科学文化セン タービル建設準備事務局
	"	沖国大考古第2号	原書房
		沖縄国際大学文学部紀要 (国文学編)	沖国大 考古学研究室
		文学部紀要社会学科編	沖国大文学部

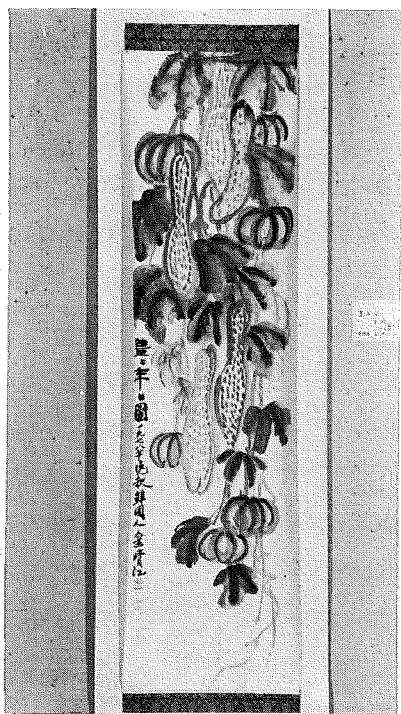
書名	寄蔵者名	書名	寄蔵者名
仏桑華の花ひらく ものとくらし	伊藤昭一 稲城市教委員会	地学教育研究会誌第2号 昭和53年 都屋誌	沖縄県高等学校 地学教育研究会 読谷村都屋公民館
石造物・続	稲城市役所	伊野波公民館落成記念誌 昭和52年度版 沖縄県の経済概況	伊野波区 沖縄県 県企画調整部 統計課
晴湖	埼玉県立博物館	沖縄県鉱工業指数 (昭和50年基準改訂版)	"
平良市史	平良市役所	県内主要経済指標の動向 (昭和52年報)	東京都教育庁文化 課埋蔵文化財係
考古学資料館要覧(陶磁器) "(関東の古墳時代文化)"	国学院大学考古学 資料館	東京都埋蔵文化財調査報告 第5集都内横穴墓緊急 調査集録	九州歴史資料館
家譜目録那覇市史編集室蔵	那覇市企画部 市史編集室	九州歴史資料館研究論集4 神奈川県立博物館人文部 門資料目録(1)民俗	神奈川県立博物館
福岡市西区 四箇周辺遺跡調査報告書(2) "別冊"	福岡県教育委員会	東京国立博物館紀要 第13号昭和25年度	東京国立博物館
福岡市神松寺遺跡	"	沖縄県の戦後教育史 (資料編)	県教育委員会
九州縦貫自動車道関係埋蔵 文化財調査報告	"	狐塚古墳群II	大任町教委会
" -XXII-(図版編)	"	片山古墳群第3集	岡垣町教委会
" -XXII-(付図編)	"	新蔵古墳第3集	甘木市教委会
" -XXII-(本文編)	"	中、西コモリ遺跡第2集	大野城市教委会
-XVIII-	"	伊場遺跡遺物編1	浜松市教委会
" -XX-	"	平塚市 発掘調査の回顧と展望II	平塚市立博物館
" -XXV-(本文編)	"	琉球絵図案集	沖縄県立伝統工芸 指導所
" -XXV-(図版編)	"	工芸織物欠点解説集	事業協同組会
" -XIX-	"	生徒と先生のための博物館 学習	秋田県立博物館
" -XXVI-	"	博物館利用の手引き	"
" -XXI-	"	新潟県 美術博物館所蔵品目録	新潟県美術博物館
" -XXIII-	"	栃木県立美術館 (紀要) No.5	栃木県立美術館
" -XXIV- 上巻	"	那覇市77, 市勢要覧	企画部広報課
" -XXIV- 下巻	"	やきもの入門	淡交社
山陽新幹線関係埋蔵文化財 調査報告第5集	"	正倉院展目録	奈良国立博物館
席田遺跡郡調査概要II	"	研究報告1	岡山県立博物館
種子植物目録	鳥取県立博物館	建築と歴史	学生社
郷土と博物館	"	統沖縄旧法制史料集成 女官御双紙・服制第2巻	養秀同窓会
昭和52年度第16回九州高等 学校理科教育研究会沖縄大 会野外研修案内	沖縄県高等学校理 科教育研究会協議 会		崎浜秀明

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
写真と絵画その相似と相異 沖生教研誌 8号～11号	東京都美術館 沖縄生物教育研究会	平塚市博物館資料 自然観察ガイドNo.9 作ってみよう(体験学習 シリーズテキスト集)	" "
公立学校施設一覧	沖縄県教育庁施設課	水野葉舟三里塚の文人たち 浦和市立郷土博物館 研究調査報告書	成田山史料館 浦和市郷土博物館
資料図録No.12	郵政省通信博物館	県議会図書室所蔵 琉球政府刊行物目録	県議会図書室
平敷屋朝敏の文学	玉栄清良	協会々報第38号	神奈川県博物館協会
忠敬堂郷土史料集	忠敬堂	博物館ひろばNo.23～24	"
美術名典	芸術新聞社出版部	名古屋市博物館研究紀要 第1巻	名古屋市博物館
伊江島のパジチ調査報告	伊江島村教育委員会	日本の伝説18 沖縄 Annual Report Institute of Geoscience	世界文化社
まつり1973 SPRING 21	まつり同好会	古雅之泉第2号	筑波大学地球科学系
聖なるもの巫女舞と産忌	"	朱印船と南海雄飛	豊美美術店
まつりと民芸	"	古代文化12 DECEMBER 1978 Vol.30	毎日新聞社 出版局営業室
民芸用と美	用と美の会	野沢如洋展図録	古代学協会
国際人口統計要覧	人口問題研究会	多良間島の方言	青森県立郷土館
北海道開拓記念館調査報告	北海道開拓記念館	第3回新人染織展覧会図録	沖縄県教育庁文化課
産業のあゆみ	"	韓日関係研究所紀要	一の穂株式会社西川
北のくらし	"	孤高の画家 大村長府	嶺南大学校附設 韓日関係研究所
糸園和三郎展	大分県立芸術会館	昭和53年度 学校一覧	奈良県立美術館
小学生全集	文英堂	学校要覧昭和53年度	県教育庁企画室
法令速報	東京法律研究所	興南研究紀要5～6	興南高校
古典籍下見展観大 入会目録	伊藤一	沖国大 文学部紀要第6巻	"
具志川島遺跡群	伊是名村教育委員会	内間御殿	沖国大文学部
さつまいも文化	原野農芸博物館	自然への招待	西原村教育委員会
伊江島ナガラ原西貝塚 出土の土器	沖縄県教育委員会	海をわたってきた やきもの展目録	苦小牧 青少年センター
神奈川県文化財調査報告書37	神奈川県教育委員会	化石展目録	"
" " 38	"	朴正熙大統領特別談話	駐那覇大韓民国 領事館
西丹沢の民俗 I、II	"	" 参考資料	"
漢詩集採雲	久場長文	国東の民具民俗	国東町歴史民俗 資料館
北海道開拓記念館研究報告 第4号	北海道開拓記念館	あなたの科学技術 28～29	科学技術庁 振興局普及啓発課
" 第15号	"	船と海のはくぶつかんNo.1	横浜海洋科学博物館
十七ノ域遺他詳細分布 調査報告	平塚市博物館		
上ノ人A遺发掘調査報告	"		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
安井曾太郎	ブリヂストン美術館寄贈	特別展 紀伊国	紀伊風土記の丘資料館
仏教藝術 80号	恩文閣出版	火山と地震No.1	平塚市博物館
議会時報 22~24号	沖縄県議会	願かけと奉納物	八王子市郷土資料館
染織マンスリー 5~12月号	染織と生活社	須恵町立歴史民族資料館	須恵町立歴史民族資料館
青少年No.101~106	沖縄県青少年育成県民会議	古代の生活(2)	船橋市郷土資料館
夏の青少年育成県民運動実施要綱	"	船橋市郷土資料館 第20回展示資料観覧の手びき	"
ザン 創刊号第2号	柴田書店	所報	国立沖縄青年の家
書陵部紀要第29号	宮内庁書陵部	桑鶴土橋遺跡	熊本大学法文学部 考古学研究室
沖縄県図書館協会誌	沖縄県図書館 協会誌編集委員会	沖縄県図書協会誌第9号	沖縄県図書館協会 誌編集委員会
続琉球国志略下	沖縄県立図書館	那覇の伝統工芸	那覇市役所
沖縄の振興開発	沖縄総合事務局	奥原晴湖展	埼玉県立博物館
大和文華第63号	大和文華館	青少年の集い県大会	沖縄県青少年育成
琉球及 東南諸海島与中国 伊江島ナガラ原西貝塚 出土の土器	梁嘉円	津堅島植物目録	仲間良英
恩納村熱田貝塚発掘調査 ニュース	沖縄県教育委員会	敦賀郷土博の葉	敦賀郷土博
とやまと自然第1巻	"	沖縄の文学	沖縄県高等学校教組
昭和52年度大分県近世美術 (書画) 所在地調査報告書	富山市科学文化センター建設準備事務局	図説日本の書 (1)図説篇 (2)解説篇	飯島春敬
郵政省通信博物館 資料目録No.11	大分県立芸術会館	日本の四季第16巻	国際情報社
沖縄文化財調査報告	通信博物館	ばくらの沖縄郷土の地理と歴史	仲松弥秀
インドネシア染織大系上下 TOLK TRADITIONS IN JAPANESE ART	多和田真重	日本書記(下)	青木和夫
公済時報5、6、7	柴紅社	史料編集所紀要第3号 矢	史料編集所
銅予と銅	日本写真印刷	沖縄県史料 近代I	"
沖縄の史蹟と文化	公立学校共済組合	季朝工芸と古陶の美	東洋経済日報社
琉球民族誌	福岡市立歴史資料館	人間国宝シリーズ(14) 鎌倉芳太郎	講談社
鹿児島の自然	川平朝申	今帰仁村史	今帰仁村役場
仙台市博物館図録 vol. III	金閥大夫	沖縄の戦後教育史(資料編)	県教賀
読谷の文化財	鹿児島自然研究会	沖縄県町村会30年のあゆみ	県町村会
民俗学研究紀要	仙台市博物館	琉球絆図案集	伝統工芸指導所
フィリピンの鳥と昆虫展	読谷村教育委員会	日本出土の中国陶磁	東京国立博物館
沖縄薬草のききめ	成城大学民俗学研究所	Craft Treasures of Okinawa	講談社
	伊丹市立博物館		
	佐久田出版		

書名	寄贈者名	書名	寄贈者名
沖縄資料集成	グリーン・ライフ		
沖縄文化研究 5	法政大学沖縄文化研		
西洋史稿	友寄英一郎		
沖縄文化財調査報告 (1956~1962)	県教育庁		
沖縄紅型城間栄喜作品集	城間栄喜		
仏桑華の花ひらく	井伊文子		
平良市史第4巻資料編2	平良市役所		
東恩納寛惇全集	サントリー美術館		
沖縄—自然、文化、社会	"		
原色沖縄海中動物生態図鑑	"		
世界の博物館全巻	"		
大漢和辞典縮写版全12巻	安里進		
日本国語大辞典全20巻	"		
上海博物館	"		
トプカサ・サライ・コレクション中国陶磁	"		
定本柳田国男集全第36巻	"		
仲原善忠集全4巻	名嘉ツヤ子		
日本古代学論集	平安博物館		
勝山誌	名護市字勝山		
那覇市史資料篇第2巻中の7	那覇市役所		
日本太陽崇拜史	糸満盛信		
図説人物海の日本史(5)	毎日新聞社		
科学隨筆文庫36、建築と歴史	伊東忠太		
世界陶磁全集1. 日本原始	小學館		
写真記録「これが沖縄戦だ」	那覇出版社		
写真集「わが沖縄」	"		
戦後沖縄写真記録ゼロからの時代	"		
沖縄戦後写真史	月刊沖縄社		

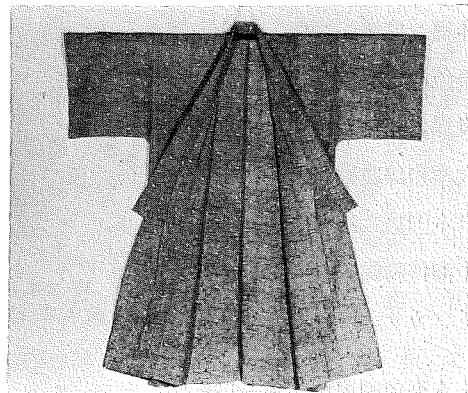
## 5. 主なる新収蔵品写真



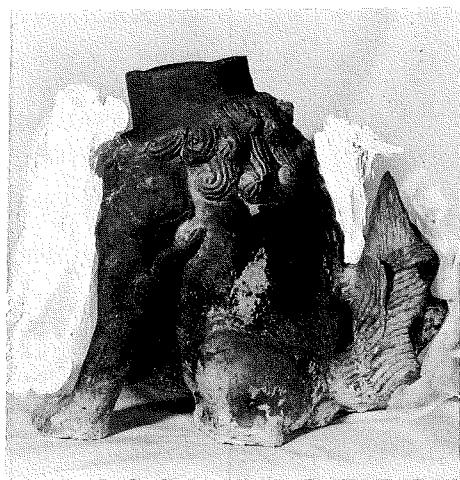
へちまとかばぢや  
韓国人、金晴江筆  
寄贈者、金晴江氏  
139.6 × 37.6



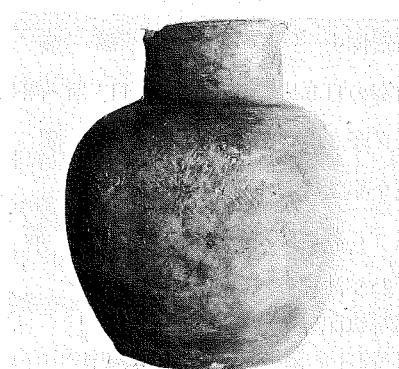
牡丹浮彫 伊東裁子



木綿水色地草花模様紅型着物  
永田芳子氏寄贈



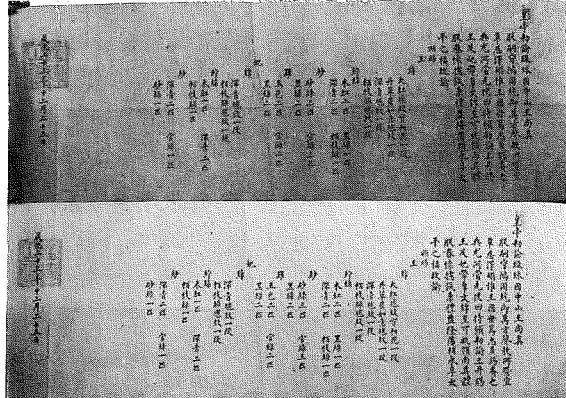
法林和尚骨壺 高さ 24.3  
渡口仁也作、1708年  
寄贈者 善国乘憲氏



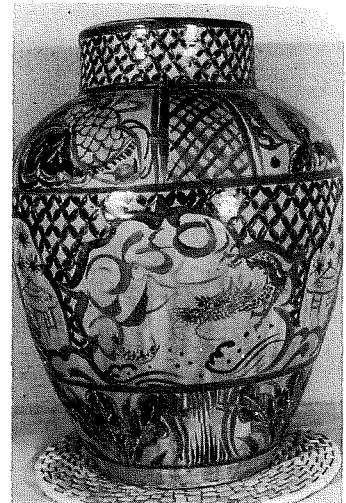
須恵器 (國頭村安波出土)  
渡部精氏也寄贈



黒漆双龍珠取螺鈿盆



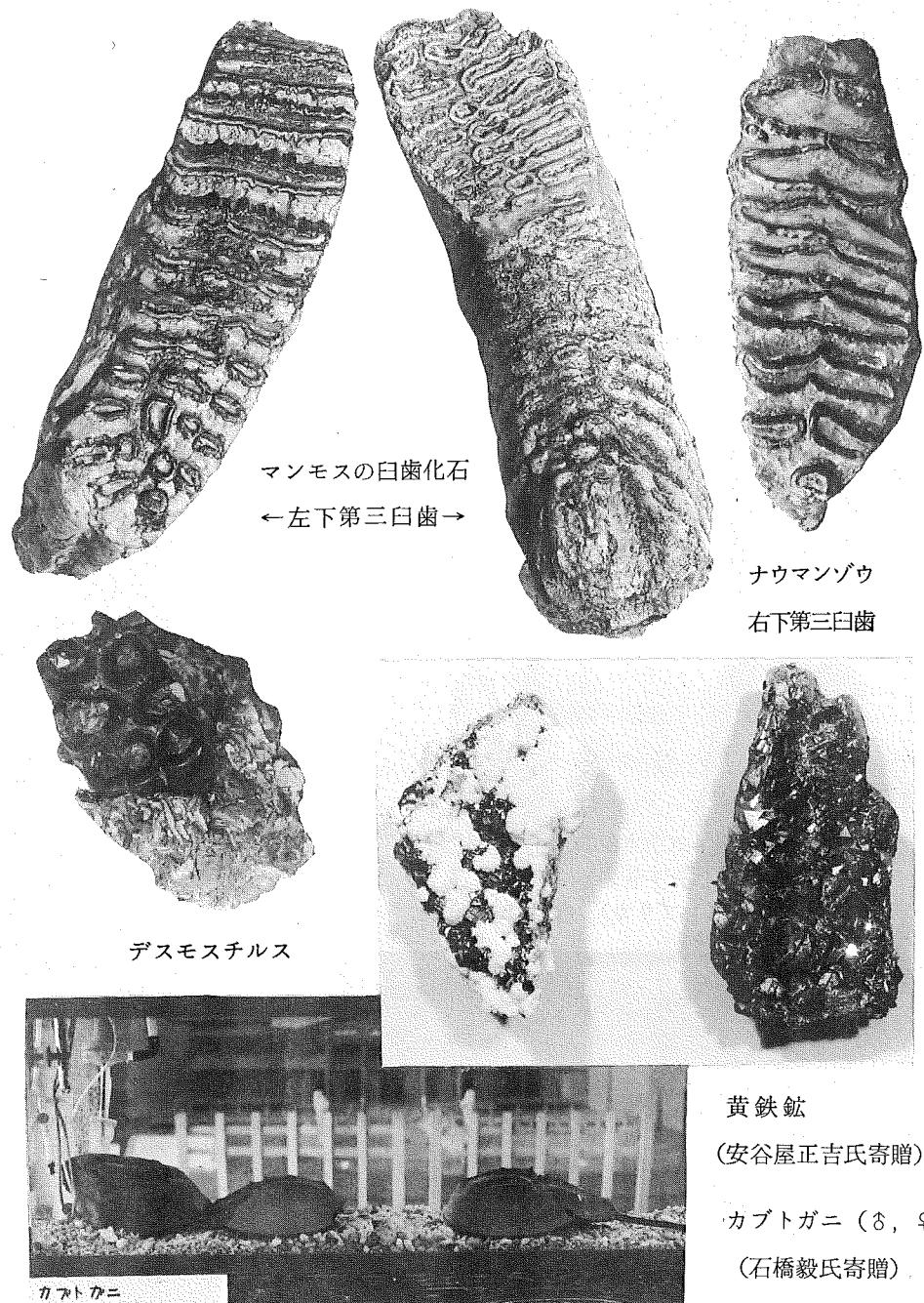
玉陵石獅子（レプリカ）（尚裕氏寄贈）



赤絵大壺 高さ 59.5  
小橋川永昌作 1971 年  
寄贈者 小橋川永昌氏



石厨子と荒焼厨子甕  
寄贈者 島袋秋吉氏宮里政章氏

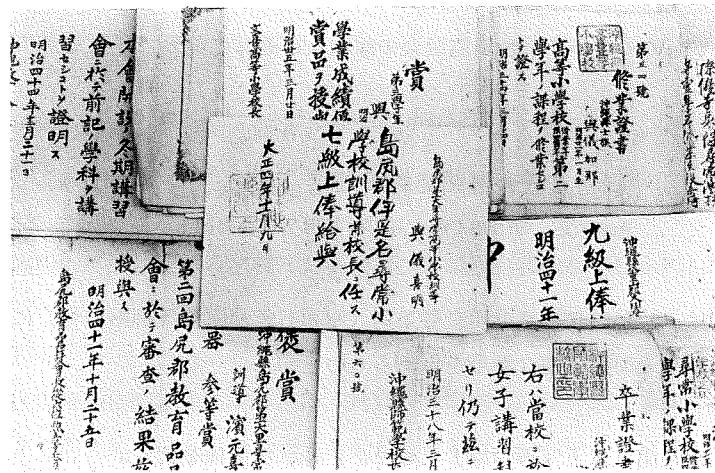




龍船・波文貼付壺・他13点  
小橋川仁王作(初代)  
(米国の篤志家からの寄贈)



赤絵壺 小橋川永昌作  
(購入)



賞狀・辭令書類 180点 (大里喜誠氏寄贈)

## 当館関係条例規則（抄）

### ○沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年5月15日） （条例第24号）

最終改正 昭和53年3月29日条例第16号

（趣旨）

**第1条** この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条、図書館法（昭和25年法律第118号）第10条及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

**第5条** 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

（博物館協議会）

**第6条** 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

### ○沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年5月15日） （教育委員会規則第2号）

最終改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第1号

（趣旨）

**第1条** この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

（博物館）

**第2条** 沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）に、次の係を置く。

庶務係

学芸係

## 教育普及係

- 2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。
- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
  - (2) 公印の管守に関すること。
  - (3) 施設設備の管理に関すること。
  - (4) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
  - (5) 博物館協議会に関すること。
  - (6) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
  - (7) 博物館資料の利用相談に関すること。
  - (8) 博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
  - (9) 博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
  - (10) 博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。
  - (11) 展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
  - (12) 学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。
  - (13) 前各号に定めるもののほか、博物館に関する必要な事務に関すること。

## ○沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年5月15日 教育委員会規則第13号）

〔沿革〕 昭和53年9月28日教育委員会規則第5号改正

沖縄県立博物館の管理に関する規則をここに公布する。

### 沖縄県立博物館の管理に関する規則

#### (趣旨)

**第1条** この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

#### (管理の責任)

**第2条** 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

#### (諸帳簿)

**第3条** 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならぬ。

#### (施設設備の亡失)

**第4条** 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損傷し、又は亡失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示を受けなければならない。

#### (警備防災の計画)

**第5条** 消防法（昭和23年法律第186号）第8条第1項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度の始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならぬ。

ない。

(当直)

**第6条** 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるものほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和47年沖縄県教育委員会訓令第4号）の定めるところによる。

(職員の服務等)

**第7条** 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

(文書)

**第8条** 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和53年沖縄県教育委員会訓令第2号）の定めるところによる。

(開館時間)

**第9条** 博物館の開館時間は、午前9時から午後4時30分までとする。ただし、館長は、都合によりこれを変更することができる。

(休館日)

**第10条** 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 定期休館日 月曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する日
- (3) 慰霊の日 6月23日
- (4) 年始休館日 1月2日から1月4日まで
- (5) 年末休館日 12月28日から12月31日まで
- (6) 臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第2号及び第3号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

(寄贈及び寄託)

**第11条** 博物館に、資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第1号様式）又は寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第3号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄託を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

**第12条** 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

**第13条** 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

**第14条** 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認め

た場合はこの限りでない。

**第15条** 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館券の交付)

**第16条** 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館の禁止等)

**第17条** 精神病患者、伝染病患者、酩酊者その他館内の秩序を乱す行為のあると認められる者に対し館長は、入館を禁止し、又は退館させることができる。

(施設使用の許可等)

**第18条** 博物館施設（講堂、第2陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第4号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合に博物館施設の使用を許可することができる。

- (1) 専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2) 特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3) 特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4) 社会教育上不適当であると認めるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(原状回復の義務)

**第19条** 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び付属設備を原状に復さなければならない。

(損害の賠償)

**第20条** 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し又は免除することができる。

(報告)

**第21条** 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月10日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

**第22条** この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

## 附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和53年9月28日教育委員会規則第5号）

この規則は、公布の日から施行する。

## 第1号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	年月日
沖縄県立博物館長 殿	申込者
住 所	氏 名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
記	
1 種 別	2 作者名
3 作品名	4 製作年月日
5 附属品	6 資料の所在地
7 時価見積額	8 寄贈の理由

受 諸 書	上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。
昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日
沖縄県立博物館長	（印）

## 第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄託申請書	年月日
沖縄県立博物館長 殿	申請者
住 所	氏 名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受託くださるよう申請します。	
記	
1 種 別	2 作者名
3 作品名	4 製作年月日
5 附属品	6 資料の所在地
7 寄託期間	昭 和 年 月 日
8 寄託の理由	昭 和 年 月 日

## 第3号様式(第11条関係)

## 第4号様式(第18条関係)

博物館資料受託承認書		昭和 年 月 日	沖縄県立博物館長 謹	記		
1 種別	2 作者名	3 作品名	4 製作年月日	5 附属品	6 受託期間	7 備考
ては、下記により受託します。						
昭和 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託について						

博物館施設使用許可申請書		昭和 年 月 日	沖縄県立博物館長 謹	記		
申請者氏名 電 話	下記により貴館施設を使用したいので、許可してくださいようお願ひします。					
1 団体名	2 使用者 及び 代表者名	3 住 所	4 使用目的 3 使用する施設：1ホール 2 臨時陳列室	5 予定参加人員 人	6 その他必要な資料(プログラム等)	7 許可書 月 日付申請の( ) 使用の件、申請どおり許可します。 昭和 年 月 日 沖縄県立博物館長

○沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年10月2日）  
(教育委員会規則第29号)

(趣旨)

**第1条** この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）第6条第4項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

**第2条** 協議会は、委員10人で組織する。

(委員)

**第3条** 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

**第4条** 委員の任期は2年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

**第5条** 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行なう。

(会議)

**第6条** 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

**第7条** 委員は、その職務を行なうために必要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

**第8条** 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

**第9条** この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

**附 則**

この規則は、公布の日から施行する。

○ 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年5月15日）  
（条例第37号）

最終改正 昭和54年3月29日条例第16号

（趣旨）

**第1条** この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第228条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

（使用料の徴収）

**第2条** 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

（使用料の納期）

**第3条** 使用料は、前納とする。

（使用料の減免）

**第4条** 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

（使用料の不還付）

**第5条** 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（罰則）

**第6条** 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

（教育委員会規則への委任）

**第7条** この条例に定めるもののほか、使用料の徴収に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

**附 則**

この条例は、公布の日から施行する。

**附 則**（昭和53年3月29日条例第16号抄）

1 この条例は、昭和53年4月1日から施行する。

2 この条例は、昭和54年4月1日から施行する。

**別表第1**（博物館の入館料）（第2条関係）

使 用 者	入 館 料
一般	100 円
大学生及び高校生	50 円
中学生及び小学生	20 円
団体（20人以上）	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

沖縄県立博物館

沖縄県立博物館年報 No.12 (昭和 53 年度)

昭和 54 年 8 月 10 日発行

編集・発行 沖縄県立博物館

住所 沖縄県那覇市首里大中町 1 の 1

▼903 TEL : 0988-32-2243

印刷 (株) 丸正印刷社

住所 那覇市字国場 349-3

TEL : 0988-32-8484